McFile

-利用者ガイド-

Copyright(C) 2000-2002 Hiroaki Imazeki All rights reserved.

-目次-

１．はじめに 1

２．デモ版について 4

３．おことわり 5

４．前提条件 5

５．導入方法 6

６．基本操作 8

6-1．起動方法 8
6-2．メイン画面の説明 9
6-3．一覧表示の切り替え 9
6-4．一覧画面上での操作 10
6-5．ファイル・データベースの操作 13
6-6．ファイル・データベース名と属性の変更 15
6-7．ディレクトリ操作 16
6-8．ショートカット DB 18
6-9．データベースフィルター 20
6-１０．ツールメニュー 21

７．各種設定 26

7-1．基本設定 26
7-2．表示設定 29
7-3．メニュー項目編集 32
7-4．拡張子関連付け 35
7-5．送る一覧 37
7-6．データベース関連付け 38

８．ファイルのテキスト表示（McText） 43

９．テキストのメモ取込（daMemoPad） 44

１０．URL を開く（ClipperOpen） 45

１１．メールへ添付（McMail） 45

１１-１．添付方法 47
１１-２．復元方法 48
１２. Wave ファイルの再生 51
１３．バックアップおよびリストア 52
１３-１．メリット 52
１３-２．デメリット 52
１３-３．バックアップ操作 53
１３-４．リストア操作 55
１３-５．バックアップセットの確認 59
１３-６．前回 IMPORT に失敗したデータベースの名前 59
１３-７．バックアップセットの削除 59
１４．赤外線通信 60
１４-１．ファイルの送信 60
１４-２．ファイルの受信 61
１４-３．赤外線機能の活用 61
１５. Bluetooth 62
１６．ハイレゾ機種用操作 63
１６-１．ソニーハイレゾライブラリ 63
１６-２. HANDERA QVGA 65
１７．その他（制限事項、ヒント等） 66
１７-１．ショートカットについて 66
１７-２．メモリーカードのフォーマットについて 66
１７-３．ファイルのリネームについて 66
１７-４．長いパス名 66
１７-５．大量のファイルコピー 66
１７-６．ファイルインポート時の動作 67
１７-７．導入しておきたいアプリケーション 67
１７-８. PC と連動したバックアップ・リストア 67
１８．連絡先等 68

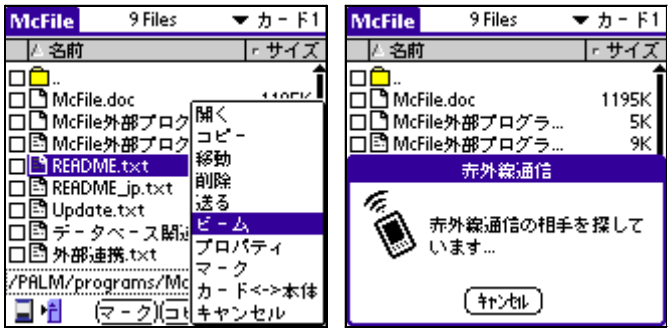
1.はじめに

McFile は以下のような特徴を持った、PalmOS デバイス本体内およびメモリーカード内のファイルを操作するためのアプリケーションです。ファイルのコピーや移動等の基本的な機能の他に、各種アプリケーションと連係することにより、テキストや DOC ファイルの閲覧、メールへの添付等の処理を行うことが可能です。

・ ファイル操作
メモリーカード上のファイルコピー、移動、削除等の基本操作を実行することができます。この操作は PC 上のファイル管理ソフトと同様に、ディレクトリを対象に含めることができるため、不要になったディレクトリツリーの一括削除等が容易におこなえます。

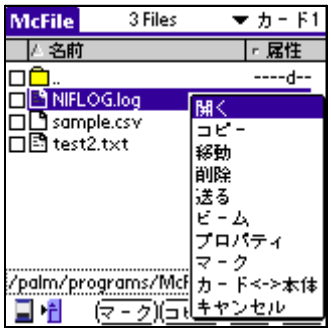


・ 赤外線または Bluetooth による送受信
一般的なデータベースおよびファイルの赤外線送信以外にも、メモリーカード上へのファイル受信機能を備えています。このメモリーカード上での送受信はファイル形式に左右されませんので、prc/pdb 以外の一般的なファイルを扱うことも可能です。



なお､サポートされる Bluetooth 機器については Bluetooth の項目を参照してください。

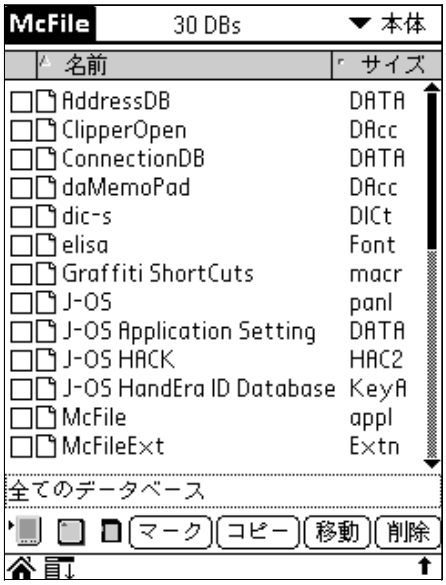
・ アプリケーション連係
外部連係用のインターフェースを備えているアプリケーションと連係することにより、各種ファイルを「開く」または「送る」ことが可能となります。サンプルとして「テキスト表示」「メール添付」等の連係機能が設定してあります。

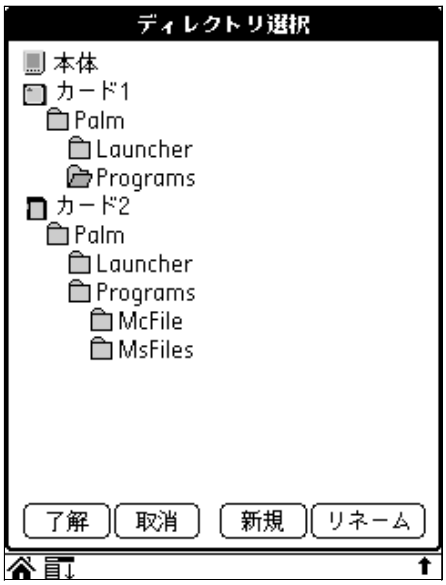


・ ジョグ対応
各機種へ搭載されているジョグダイアル、ジョグホイールへ対応しています。ファイル一覧での操作および各種ポップアップメニュー操作がジョグのみで行えます。また、CLIE であれば、山田達司氏の作成された PowerJOG と併用すると、ジョグだけで殆どの操作が行えます。

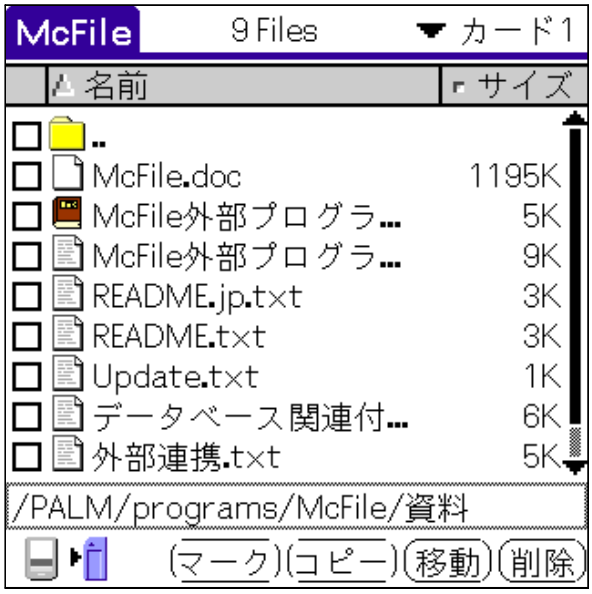
・ ハイレゾ対応
各機種へ搭載されているハイレゾライブラリに対応しています。対応機種では自動的に表示モードが切り替ります。

HandEra330 の場合

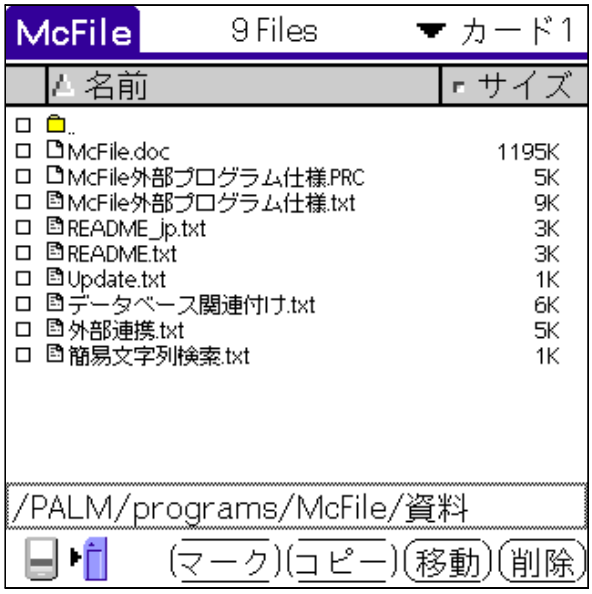




CLIE の場合


McFile
9 Files
カード1
名前
サイズ
..
McFile.doc 1195K
McFile外部プログラ... 5K
McFile外部プログラ... 9K
README.jp.txt 3K
README.txt 3K
Update.txt 1K
データベース関連付... 6K
外部連携.txt 5K
/PALM/programs/McFile/資料
(マーク)(コピー)移動削除


ディレクトリ選択
本体
カード1
PALM
Launcher
programs
Docs
McFile
backup
info
資料
MsFiles
了解
取消
新規
リネーム


McFile
9 Files
カード1
名前
サイズ
..
McFile.doc 1195K
McFile外部プログラム仕様.PRC 5K
McFile外部プログラム仕様.txt 9K
README_jp.txt 3K
README.txt 3K
Update.txt 1K
データベース関連付け.txt 6K
外部連携.txt 5K
簡易文字列検索.txt 1K
/PALM/programs/McFile/資料
(マーク)(コピー)移動削除


ディレクトリ選択
本体
カード1
inst
Palm
Launcher
Programs
Bitmap
Docs
GMEDIA
iSilo
JFile
McFile
b6
eng
jpn
info
mml
了解
取消
新規
リネーム

2.デモ版について

このパッケージ内のプログラムは 1,500 円のシェアウェアとして配布します。登録を行う前はデモ版として、以下のように機能が制限されます。

- McFile および McTransfer
  試用期間は、どちらかのプログラムを PalmOS デバイスに導入してから、30 間です。
  起動時にランダムで試用期間であることを示すメッセージが表示されます。

- その他のプログラム
  制限はありません。

継続して使用する場合は、以下のいずれかのサイトから送金をお願いいたします。

-> http://visavis.handango.com/



-> http://www.jp.sonystyle.com/peg/Store/Software/index.html



送金が完了すると「登録キーファイル」がダウンロードできます。これを PalmOS デバイスへ導入することにより、制限が解除されます。

なお、登録状況については、McFile または McTransfer のアバウト画面で確認ができます。

3.おことわり

- このパッケージ内のプログラムの著作権は McFile 作者(今関 弘明 imazeki@jade.dti.ne.jp)にあります。
- このパッケージ内のプログラムはシェアウェアとして配布します。
- このパッケージ内のプログラム使用した、または、使用しなかったことによる全ての損害について作者はその責を負いませんし、また不具合等に対処する義務も一切負わない事をここで明らかにしておきます。
- バグの御報告や御要望は、作者へのメールでお願いいたします。
- このパッケージ内の PRC ファイルへの変更は禁止します。
- このパッケージ内のプログラムを転載する場合は、予め作者にご相談下さい。
- このソフトに関する記述を雑誌以外の書籍等で行う場合には予め作者にご相談下さい。

4.前提条件

- PalmOS 3.5 以上を搭載した PalmOS デバイスへ導入可能です。
- 各種メモリーカードを扱うためには、PalmOS デバイス上に VFS マネージャーが搭載されている必要があります。
- ファイル、ディレクトリ名に日本語等の２バイト文字を使用するためには、VFS マネージャーが２バイト文字をサポートしている必要があります。なお、Visor の SpringModule 等では､独自の(VFS を経由しない)ドライバーは２バイト文字をサポートするが、VFS をサポートするためのドライバーは２バイト文字をサポートしないといった場合があります。そのような場合には McFile では２バイト文字は扱えません。
- 必須ではありませんが、メーカーから提供されている各機種用のアップデータ、特に VFS 関連のものは適用しください。
- 山田達司氏の作成された PowerJOG と併用すると、ジョグだけで殆どの操作が行えるよう、インターフェースを構築してあります。
- Wave ファイルを再生する場合は、ながまつ氏の作成された Wave Sound Manager を導入してください。URL -> http://www.geocities.com/nagamatu/
  (サポートされる OS 等は WaveSoundManager のドキュメントを参照ください)

5.導入方法

ダウンロードしたファイルから以下の表をもとにして、必要なファイルを HotSync 等で PalmOS デバイスへ導入してください。もし判定が困難な場合は、各言語用の Basic フォルダーおよび Opt フォルダーのファイルを全て導入してください。

フォルダ名	ファイル名	備考
Basic(Jpn)	McFile.prc	プログラム本体です。必ず導入してください。
	McText.prc	テキストファイル表示プログラムです。
	McMail.prc	指定されたファイルを標準メールへ添付するプログラムです。
	McShortcut.prc	ショートカット DB を起動するプログラムです。
	McFileExt.pdb	拡張子関連付けのサンプル設定です。
	McFileSend.pdb	送る一覧のサンプル設定です。
	McFileExtDB.pdb	データベース関連付けのサンプル設定です。
Basic(Eng)	McFileEng.prc	プログラム本体です。必ず導入してください。（英語版）
	McTextEng.prc	テキストファイル表示プログラムです。（英語版）
	McMailEng.prc	指定されたファイルを標準メールへ添付するプログラムです。（英語版）
	McShortcutEng.prc	ショートカット DB を起動するプログラムです。（英語版）
	McFileExt.pdb	拡張子関連付けのサンプル設定です。（英語版）
	McFileSend.pdb	送る一覧のサンプル設定です。（英語版）
	McFileExtDB.pdb	データベース関連付けのサンプル設定です。（英語版）
Opt	daMemoPad.prc	ファイルのメモ取込に使われるプログラムです。（日本語/英語共通です）
	ClipperOpen.prc	URL をオープンするプログラムです。（日本語/英語共通です）
	McTransfer.zip	OS4.0 の HotSync によるメモリーカードへのファイル導入を支援するツールです。詳しくは McTransfer.zip 内の readme.txt を参照してください。（日本語/英語共通。ただしドキュメントは日本語のみ）

なお、以前の版からの上書き導入は可能ですが、以下の点に注意してください。

- McFileExt.pdb 等のサンプル設定ファイルを上書きすると、各種設定が初期化されます。設定を初期化したくない場合は、サンプル設定は導入しないようにしてください。
- 日本語に英語版（あるいはその逆）を上書きした場合、ポップアップメニュー項目は以前の言語（あるいはカスタマイズした状態）で表示されます。表記を変更する場合は、設定メニューの「メニュー項目編集」で編集を行ってください。

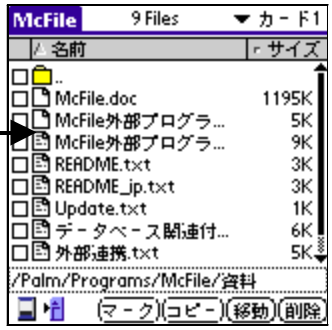
6.基本操作

6-1.起動方法

McFile.prc を導入後に、ホームボタン等を利用してホーム画面にしてください。そこから McFile アイコンをタップすることにより、McFile が起動してファイル・データベース一覧が表示されます。

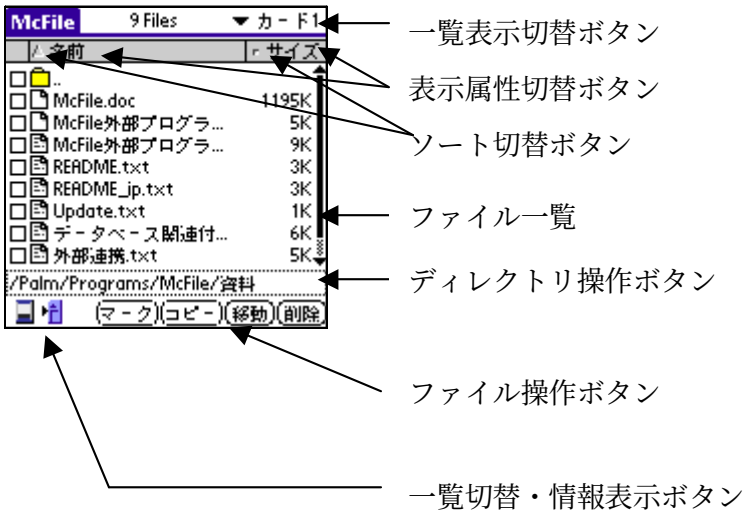


アイコンをタップすることにより、McFile が起動します。



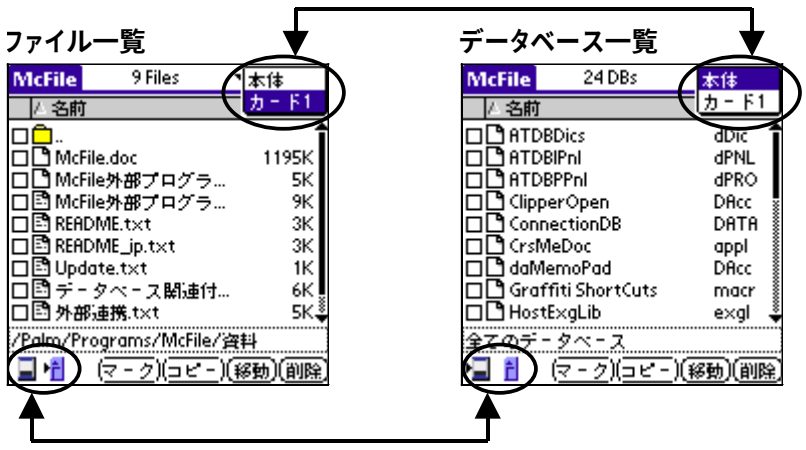
6-2.メイン画面の説明

McFile で通常使われるメイン画面は、以下のような構成となっています。それぞれの詳細は以降の説明を参照してください。



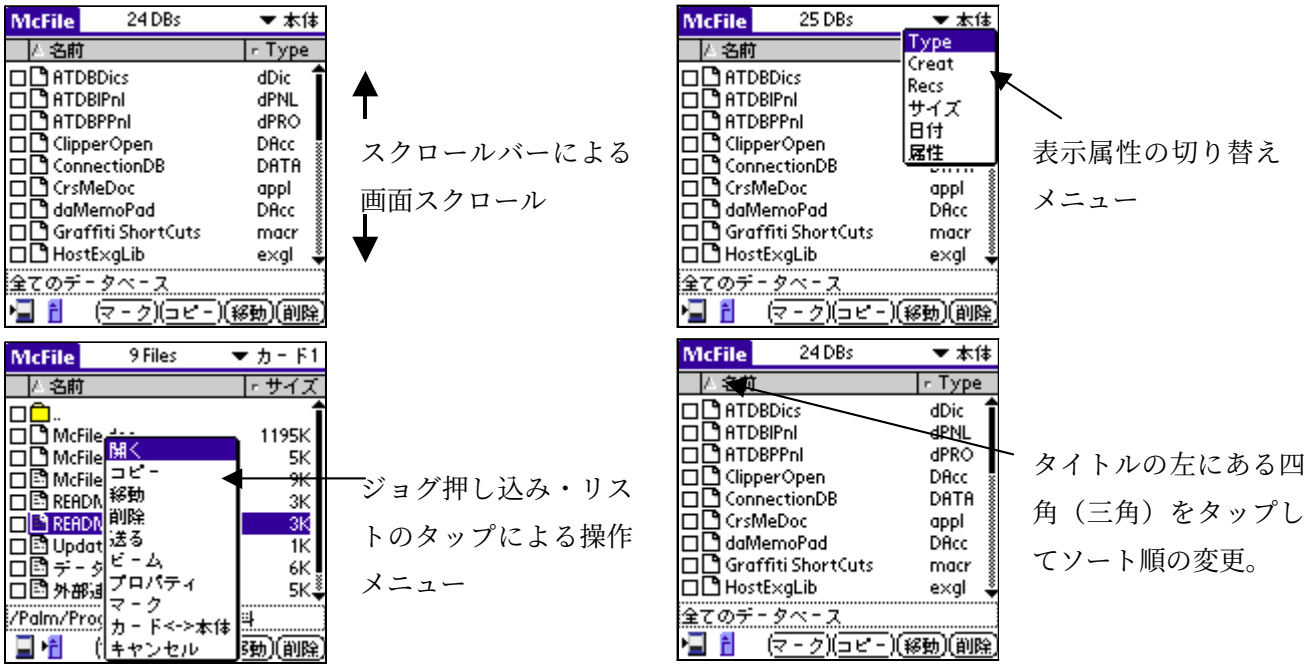
6-3.一覧表示の切り替え

McFile ではメモリーカード上のファイルを閲覧・操作するファイル一覧表示と、本体内のデータベースを閲覧・操作するデータベース一覧表示があります。それぞれのモードは、画面右上にあるポップアップトリガ（▼）または、画面左下のアイコンをタップすることによって、切り替えることができます。また、ファイル一覧表示時にメモリーカードを抜くことによっても、画面が切り替わります。



6-4.一覧画面上での操作

一覧画面は上下キー、スクロールバーによって画面をスクロールさせることが可能です。また、ジョグを回転させるとルーラーが表示され、それを移動させることでもスクロールが可能です。メモリーカード内を表示している場合にディレクトリの行（左にフォルダアイコンが表示）をタップまたはジョグで選択すると、そのディレクトリへ移動します。リストの左にあるチェックボックスで、ファイル・データベースのマークを行うことでき、一括操作などが行えます。なお、このチェックボックスは１画面内ならばドラッグで複数選択することができ、マークボタンから全選択等の操作が行えます。また、タイトルバーを操作することにより、ファイルおよびデータベースの属性表示の切り替え、ソート順の変更が行えます。



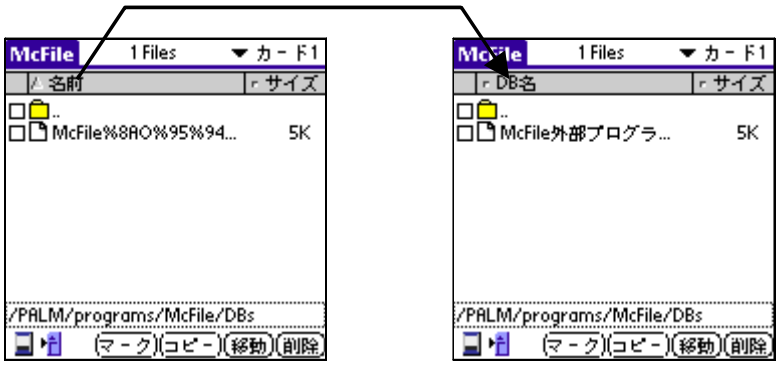
以下は切り替えることが可能な属性一覧です。

・ファイル一覧時

左タブ

名前　　ファイル名を表示します。

DB 名　PalmOS データベース名を表示します。



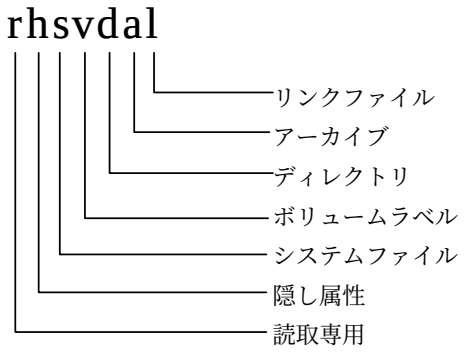
名前と DB 名を切り替えたときの例。DB 名にすると Palm 上で使われる名前になります

右タブ

サイズ　ファイルのサイズを K 単位で表示します。

日付　　ファイルの変更日付を MM/DD 形式で表示します。

属性　　以下のように属性ビットを表示します。



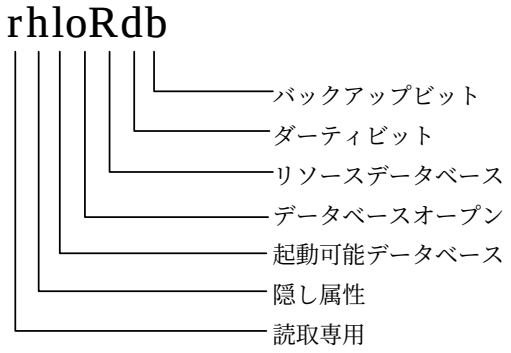
・データベース一覧時

左タブ

名前　　データベース名を表示します。
DB 名　ファイル名はないので、同上です。

右タブ

Type　　データベースの Type を表示します。
Creat　データベースの Creator を表示します。
Recs　　データベースのレコード件数
サイズ　データベースのサイズを K 単位で表示します。
日付　　ファイルの変更日付を MM/DD 形式で表示します。
属性　　以下のように属性ビットを表示します。



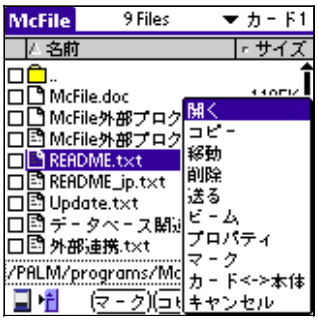
6-5.ファイル･データベースの操作

一覧画面上でファイルまたはデータベースを選択すると、画面の種類やファイルの属性に沿ったファイル操作メニューが表示されるので、そこから「コピー」「移動」等を選択してください。また、画面下のファイル操作ボタンでも同様の操作が行えます。特に、ディレクトリの一括コピー等ではボタンを使うのが良いでしょう。



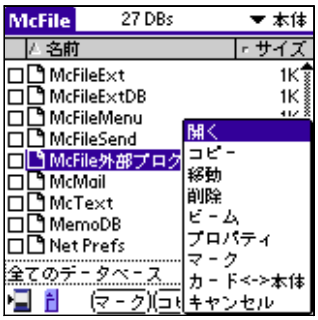
なお、このファイル操作メニューはデフォルトでは以下のように設定されていますが、カスタマイズ可能となっています。詳しくはカスタマイズの章を参照してください。

ファイル一覧時



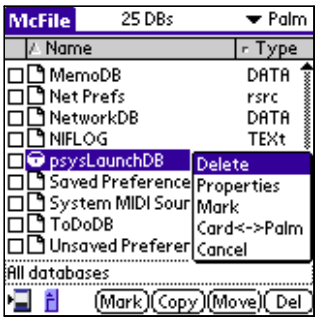
開く	選択されたファイルの拡張子が関連付けされているときに表示されます。関連付けされたプログラムを使用して、ファイルを開きます。
コピー	本体または別ディレクトリへファイルをコピーします。
移動	本体または別ディレクトリへファイルをコピーします。
削除	ファイルを削除します。
送る	送る一覧で定義された項目を表示して、選択されたファイルを対象のプログラムへ送ります。
プロパティ	ファイル名および属性の変更が行えます。
マーク	選択されたファイルのマークを反転します。
MS<->本体	ファイル一覧とデータベース一覧を切り替えます。
キャンセル	操作メューを閉じます

データベース一覧時



開く	選択されたデータベースの属性が関連付けされているときに表示されます。関連付けされたプログラムを使用して、データベースを開きます。
コピー	メモリーカード上のディレクトリへデータベースをコピーします。
移動	メモリーカード上のディレクトリへデータベースをコピーします。
削除	データベースを削除します。
プロパティ	データベース名および属性の変更が行えます。
マーク	選択されたデータベースのマークを反転します。
MS<->本体	ファイル一覧とデータベース一覧を切り替えます。
キャンセル	操作メューを閉じます

データベース一覧時（アイコンに鍵が表示）



削除	データベースを削除します。
プロパティ	データベース名および属性の変更が行えます。
マーク	選択されたデータベースのマークを反転します。
MS<->本体	ファイル一覧とデータベース一覧を切り替えます。
キャンセル	操作メューを閉じます

また、リスト左のチェックボックスとボタンを活用することによって、複数のファイル・データベースの一括操作も可能です。

※メモリーカード用ファイルシステムでは、以下の文字がファイル名として使えないため、本体からメモリーカードへコピーするときに、_ へ置き換えています。また空白とピリオドも OS4.0 の標準コピーツール同様に_へ置き換えています。

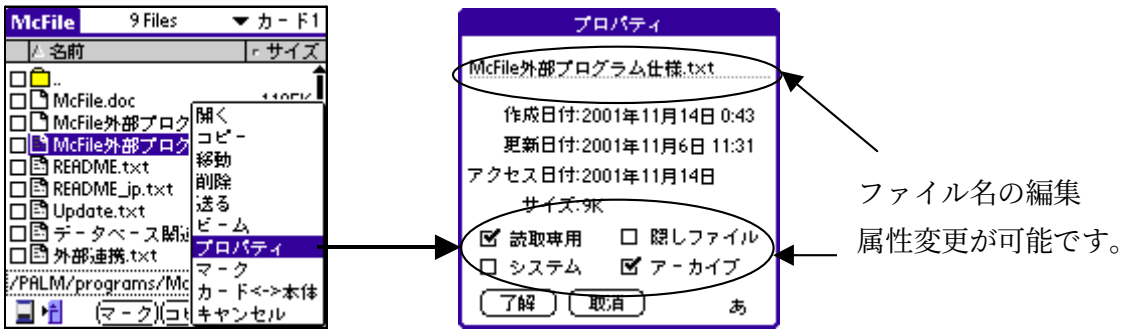
" * / : < > ? ¥ |

このルールは漢字等の２バイト文字の中で、対象文字が現れたときにも適用されます。
ただし、再度本体にコピーするときは元の名前でコピーされます。

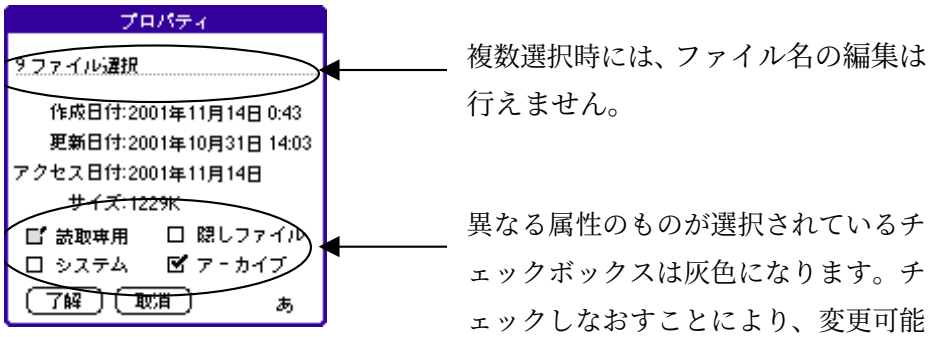
例えば、「表」というデータベースをコピーすると、「廟.pdb」というファイル名になりますが、本体に戻すと元の「表」になります。

6-6.ファイル･データベース名と属性の変更

ファイル操作メニューから「プロパティ」を選択すると、ファイル名、タイムスタンプおよび属性を表示します。この画面ではファイル名の編集およびチェックボックスを使用することにより、属性の変更が可能です。



また、ファイルを複数選択することにより、属性を一括変更することも可能です。



6-7.ディレクトリ操作

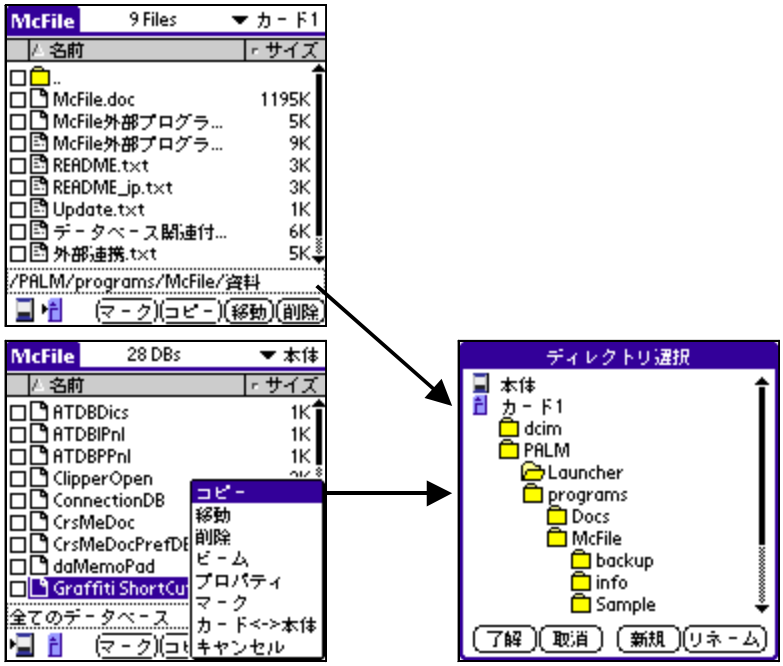
コピー・移動や、画面下のディレクトリ表示をタップすることにより、ディレクトリ操作の画面が表示されます。ここではディレクトリの移動のほかに、新規作成、リネームが行えます。

・選択操作
フォルダーが開いている状態のアイコンならば、そのディレクトリが選択状態になっています。他のディレクトリをタップまたはジョグで選択するとそのディレクトリのフォルダーアイコンが開いて（選択され)、それまで開いていたフォルダーが閉じます

・ディレクトリツリーの開閉
選択状態のフォルダーをさらにタップすると、その下のディレクトリツリーが開閉します。また、ジョグで選択時に押し込むことにより、メニューが表示され、そこでも開閉指示が行えます。

・新規作成
「新規作成」ボタンをタップすると、選択状態されているディレクトリの下に指定された名前でディレクトリが作成されます。

・リネーム
「リネーム」ボタンをタップすると、選択状態のメモリーカードまたはディレクトリの名前が変更されます。



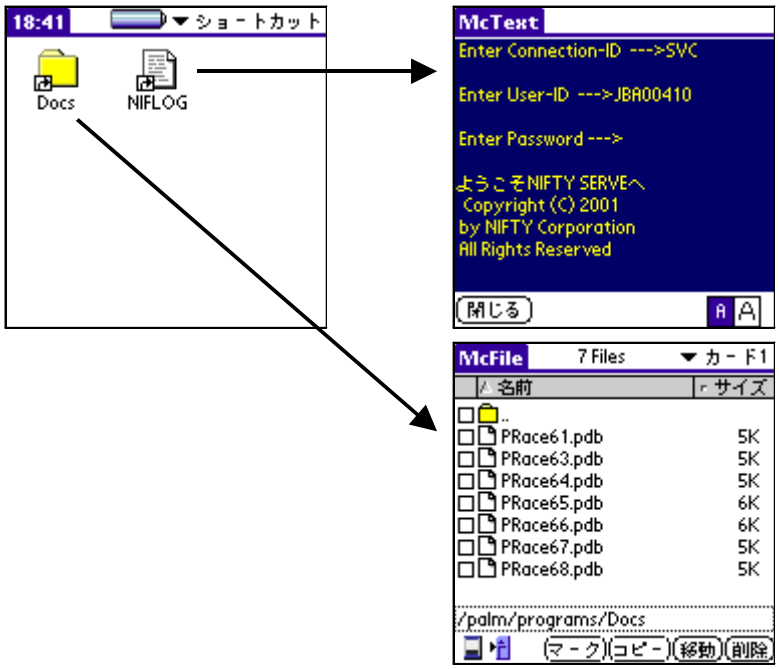
・カードの名前

ディレクトリ選択画面で表示されるメモリーカードの名前は、「カードに名前が付いている場合はその名前を」「カードに名前が付いていない場合は、McFile デフォルトの名前（カード１等）を」使用します。

6-8.ショートカット DB

ショートカット DB の概要

McFile にメモリーカード上のファイル/ディレクトリにリンクしたショートカット DB を作成出来ます。これは、Windows のショートカットまたは Mac のエイリアスに似た機能で、リンクしたアイコンをホーム画面に登録します。そしてアイコンは起動されると、ファイルの場合は「拡張子によって関連付いているアプリケーションがリンク先のファイルを読み込んで起動」、.prc の場合は「.prc ファイルと関連するファイルを読み込んで起動」、ディレクトリの場合は「リンク先のディレクトリをカレントとして McFile が起動」します。



ショートカット DB の作成

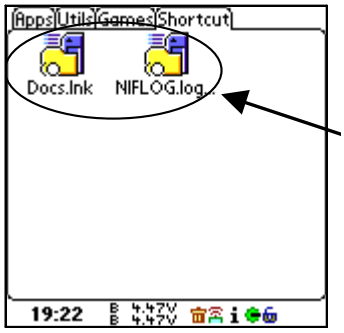
リンクしたいファイルまたはディレクトリをマークして、ツールメニューの「ショートカット DB 作成」を選択します。これで対応するショートカット DB が作成されて、ホーム画面にアイコンが登録されます。

ショートカット DB の制限

1.Launcher プログラム[1]によってはアイコンが表示されない場合があります。
2.起動するためには、McShortcut[2]が導入されている必要があります。
3.ショートカット DB を作成できるファイル名の長さは 28 文字までです。
4.同じ名前のショートカット DB は作成できません。
5.たとえば /Palm/Programs/McFile/test.txt と/Palm/Programs/Text/test.txt はファイル名が同じなので、同名のショートカット DB になります。

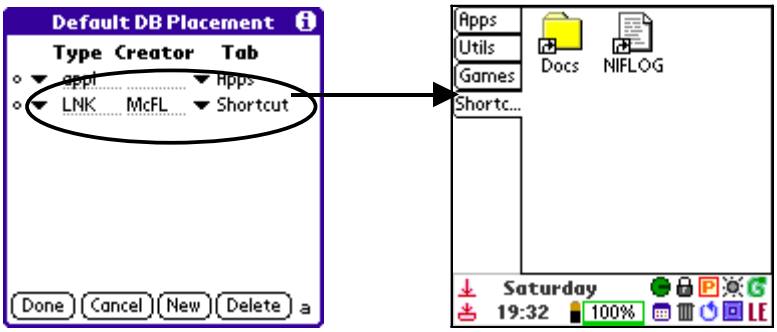
その他

LauncherIII では、ショートカットは以下のように「名前は～.lnk」「アイコンは McFile 固定」となります。



アイコン等は変わらないが、動作は可能

Launch'Em では、標準の状態ではショートカット DB は表示されませんが、DefaultDBPalcement に type='LNK '(最後に空白１文字必要)と creatorg='McFL'を登録しておけば、ショートカット DB が表示されるようになります。

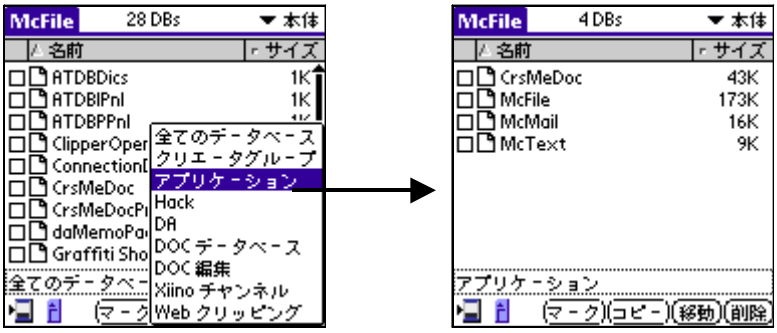


[1] ショートカット DB は起動可能属性が ON のデータベースです。よって、この属性を扱えるプログラムにのみ表示されます。

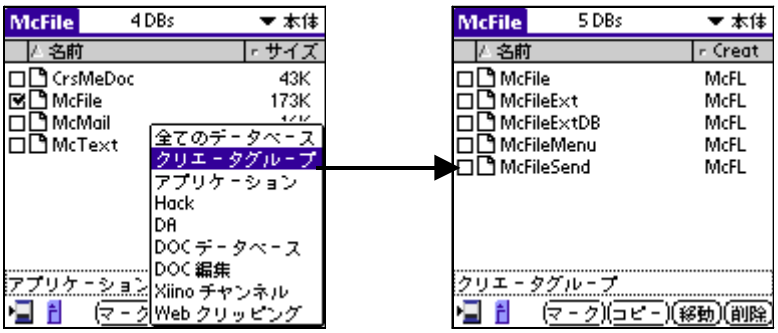
[2] McShortcut は/Basic(Jpn)に保管されていますので、必要であれば導入してください。

6-9.データベースフィルター

データベース一覧を表示している状態で、画面下部の点線で囲まれた部分をタップすると定義済みのフィルター一覧が表示されるので選択してください。選択された条件でデータベースがフィルタリングされます。なお、このフィルター定義はカスタマイズ可能で。詳しくは「データベース関連付け」の項目を参照してください。



また、ビルトインのフィルターにクリエータグループというものがあります。これは、マークされているデータベースと同一の creator id のものをリストアップします。たとえば、McFile をマークした状態で、このフィルターを選択すると McFile で使われるデータベースが表示されます。

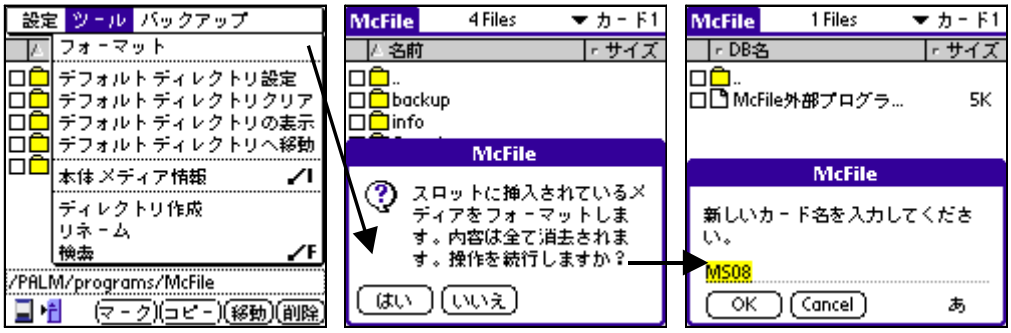


6-10.ツールメニュー

McFile では、メニューの「ツール」を選択することにより、フォーマット等の操作を行うことができます。

フォーマット

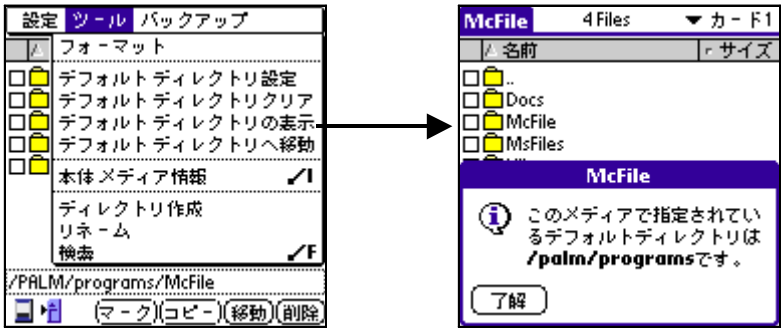
メニューの「ツール」->「フォーマット」を選択してください。現在挿入されているメディアをフォーマットすることができます。なお、複数のスロットが搭載されている機種では、フォーマットするスロットを選択することができます。



フォーマット時にカードに名前を付けることができます。

デフォルトディレクトリ

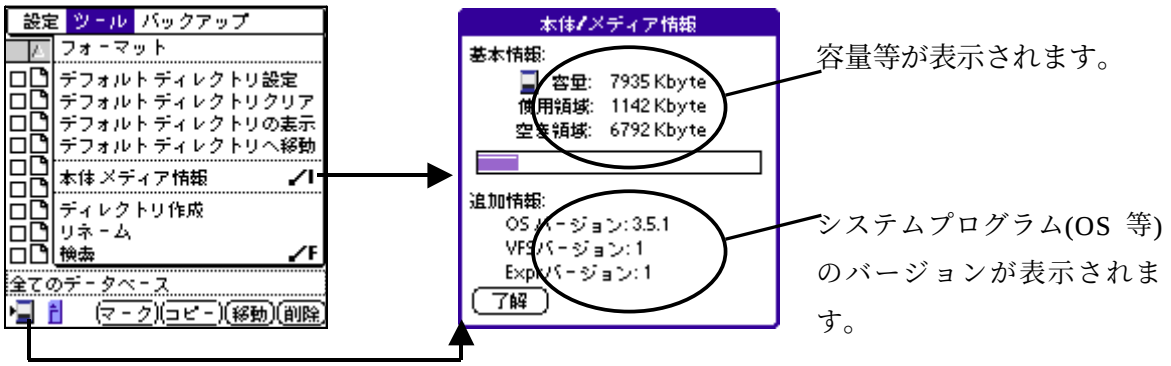
McFile では様々なディレクトリ上で作業を行えるようになっていますが、単純にファイルの受け渡しのときなど、これがかえって作業を煩雑にさせるときがあります。このような場合はメディアに対して、デフォルトディレクトリを 設定してみてください。この設定を行うことにより、「McFile 起動時」本体からのファイルコピー時」に設定されたディレクトリが選択されます。また、デフォルトディレクトリへ移動を使って、容易にそのディレクトリへの移動も可能です。 なお、デフォルトディレクトリは、メニューの「ツール」->「デフォルト～」で各操作ができます。



本体 メディア情報

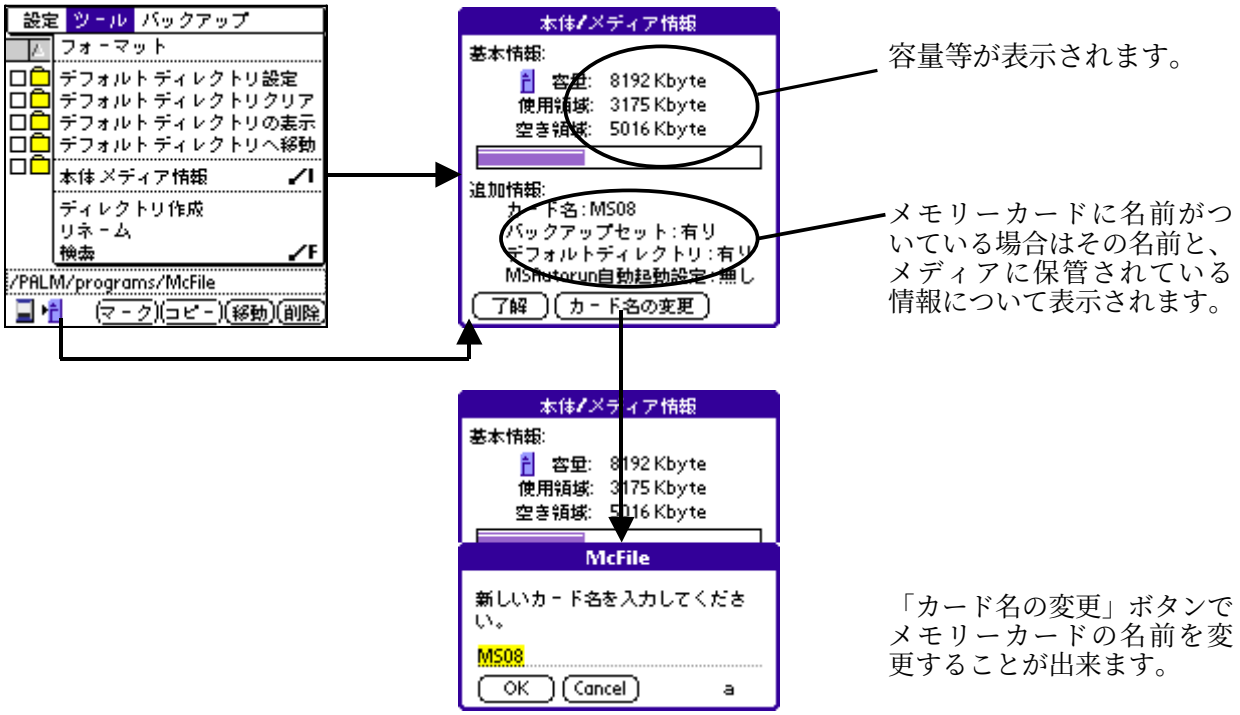
一覧画面の上部に、ファイル数、空き容量等が常に表示されていますが、メニューの「ツール」->「本体 メディア情報」を選択することにより、詳しく本体または挿入されているメディアの情報が参照できます。なお、メモリーカード一覧覧表示時に、左下のメモリーカードのアイコンをタップしても表示されます。

・本体情報。



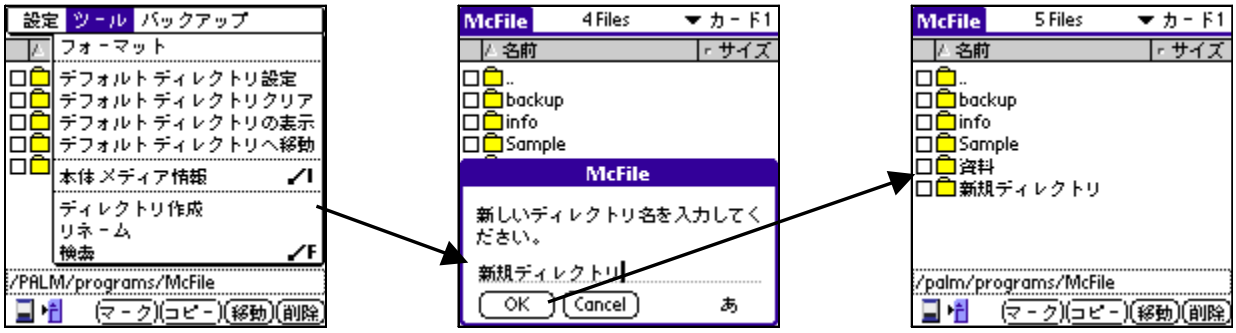
※VFS および Expr はメモリーカードを操作するための、システムプログラムのバージョンです。

・メディア情報



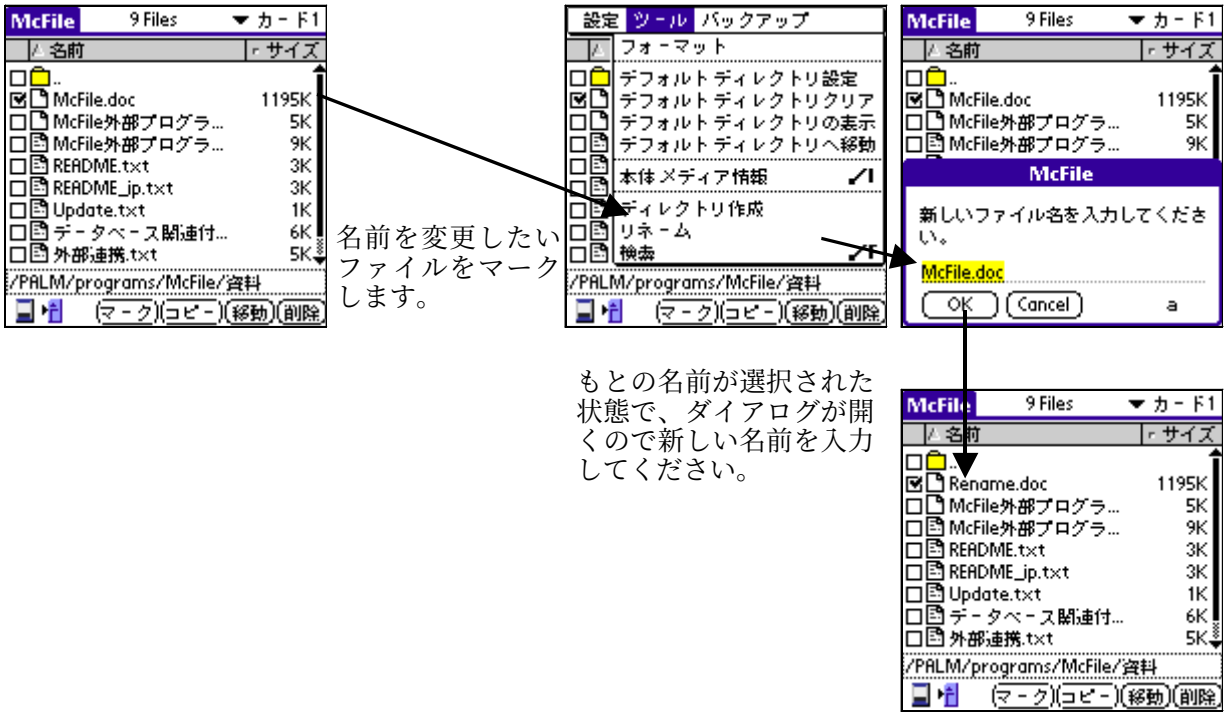
ディレクトリ作成

ファイル一覧が表示されている状態でメニューの「ツール」->「ディレクトリ作成」を選択すると、現在の表示されているディレクトリに新規のディレクトリを作成できます。



リネーム

一覧画面上から名前を変更したい項目（ファイル、データベースいずれも可）をチェックしてから、メニューの「ツール」->「リネーム」を選択すると新しい名前を入力する画面が表示されます。



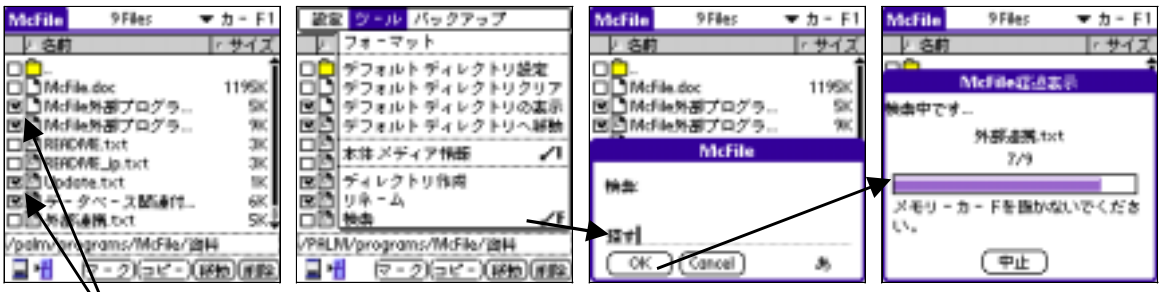
※ファイルが複数選択されている状態でリネームを実行すると、最初に見つかった（リストの上にある）項目がリネームの対象となります。

文字列検索

McFile には、指定された文字列がファイル内に存在しているか検索することが出来る、簡易文字列検索機能があります。この機能を使うことにより、メモリーカード上のテキストファイルおよび DOC ファイル内を検索して、内容を表示するようことが実現できます。

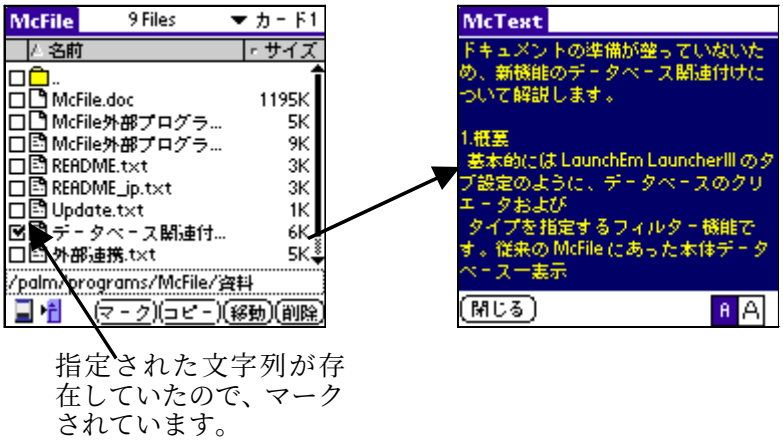
・検索方法

メニューから「ツール」->「検索」を選択して、検索したい文字列を入力してください。このとき、マーク（チェック）されているファイルがあれば、そのファイルのみが検索対象となります。



結果の確認

指定されている文字列が存在していたファイルはマークが残り、それ以外のファイルではマークは解除されます。さらに、そのファイルを閲覧するアプリ(McText や各種 DOC リーダー等)が設定されていれば、内容を確認することが可能です。ただし、閲覧するアプリにファイル内の位置情報はわたりません。



指定された文字列が存在していたので、マークされています。

・文字列検索の制限

英字の大文字小文字は区別されます。

文字列の途中に改行がある場合、改行も文字列として判定されます。

バイナリ形式のファイルの場合、正常な検索結果にはなりません。

ただし、DOC ファイルに限って、フォーマットに沿った検索を行います。

7.各種設定

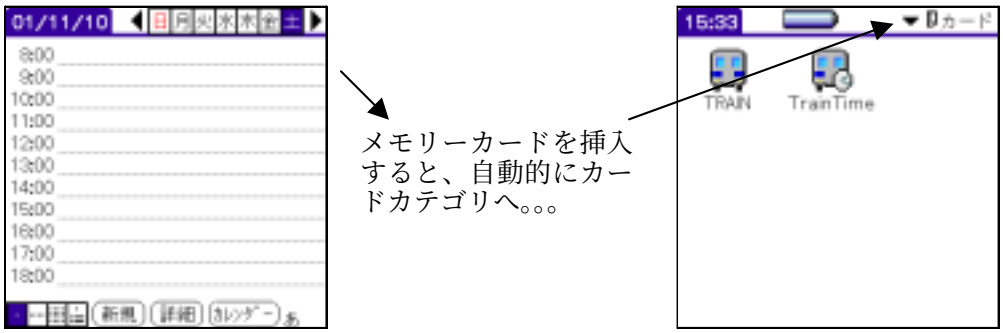
McFile では各種設定を行うことにより、ファイルコピー時の動作、表示項目の設定、拡張子等へのアプリケーションの関連付け等が行えます。PalmOS 用アプリとしては設定項目が比較的多く複雑ですが、これらを組みあせることにより、McFile はお使いの環境により適したツールになります。

7-1.基本設定

メニューの「設定」->「基本」を選択することにより表示されます。ここでは、メモリーカード挿入時等の各種動作の設定が可能です。

メモリーカード挿入時の設定

PalmOS4.0 ではメモリーカードを挿入すると、自動的にホーム画面のカードカテゴリへ切り替ります。



しかし、カード上のアプリを起動するためにメモリーカードを入れ替のではなく、たとえば mp3 の曲データを入れ替えたいだけといったときには、切り替えを抑止したい場合もあります。そのようなときには、この設定を試してみてください。なお、この機能には以下のような制限があります。

「McFile 起動時には常に抑止されます」

「ホーム画面が表示されているときは、常にカードカテゴリに切り替ります」

「ホーム画面以外の自動起動処理、たとえば MSAutoRun も抑止されます」

DB エクスポート時の設定

・ファイル名の Encode

メモリースティックのファイル名に使えない文字や、２バイト文字等を記号と英数字に置き換える設定です。英語 OS 上で日本語がデータベース名を使用している場合や、メ

モリーカード上のファイルシステムで日本語ファイル名の処理が不安定な場合に設定してください。なお、Palm からエクスポートした場合、または PC から Palm 用のデータベース（たとえば DOC ファイル等）をメモリーカードに保存した場合には、一覧で「名前」を表示すると判読が困難なファイル名が表示されますが、「DB 名」を選択すると、Palm 上のデータベース名が表示され判読しやすくなります。

例)
エンコードする設定にした場合「McFile の説明」というデータベースをエクスポートした場合には、２バイト文字の部分が置き換えられたファイル名になります。

-> McFile%82%CC%90%E0%96%BE.pdb

・ファイル名の検査
メモリーカードは PalmOS デバイスにとって比較的新しい技術です。よって仕様に沿ったファイル名（とくに日本語のファイル名の場合）を使っていても、ファイル名が破損する場合があります。それをアプリケーションサイドから出来る範囲で防ぐために、Palm 本体からのファイルコピー時とよびリネーム時に、ファイル名が破損しないか検査するための設定です。なお、これを「使用する」に設定しておくと、各動作の処理時間が増加します。
※この検査は全てのファイル名破損を防ぐことは保証していません。ご了承ください。

Mac ファイル削除

メモリーカードを Mac へマウントした際に作成される、各種ファイルを自動的に削除するための設定です。「一覧表示時」「McFile 起動時」の２タイミングで削除するように設定できます。

・一覧表示時に削除
この設定を有効にしておくと、ファイル一覧を表示するときにカレントディレクトリに、以下のディレクトリおよびファイルが存在していた場合、削除するようになります。

ディレクトリ	resource.frk
ファイル	finder.dat

・McFile 起動時に削除
この設定を有効にしておくと、McFile 起動時に以下のディレクトリおよびファイルを削除するようになります。

ディレクトリ	/TheVolumeSettingsFolder
	/TheFindByContentFolder
	/Desktop Folder"
	/Trash
	/resource.frk
	/Palm/Launcher/resource.frk
	/Palm/Programs/MsFiles/resource.frk
	/Palm/Programs/PowerRUN/resource.frk
ファイル	/Desktop DB
	/Desktop DF
	/finder.dat
	/fileid.dat
	/Icon_
	/OpenFolderListDF_
	/Palm/Launcher/finder.dat
	/Palm/Programs/MsFiles/finder.dat
	/Palm/Programs/PowerRUN/finder.dat

7-2.表示設定

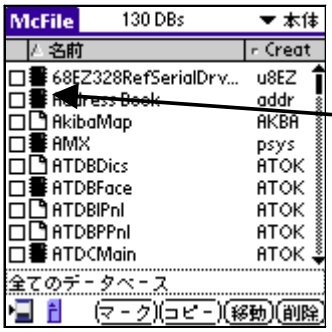
メニューの「設定」->「基本」を選択することにより表示されます。ここでは、画面に表示する項目等の設定が可能です。

表示設定

・初期表示
起動時の初期ビューを Palm 本体にするか、メモリーカードを優先にするか設定できます。

・カード一覧のソート ＆ 本体一覧のソート
この設定を変更することにより、一覧項目のソートを「する」「しない」を設定できます。ソートをしないに設定しておくと、一覧作成の時間が短縮されます。

・ROM 上の DB 表示
デバイス本体上の ROM に格納されているデータベースを表示「する」「しない」を設定できます。通常は「しない」に設定しておけば問題ありませんが、Visor のフラッシュモージュール等に格納されているデータベースを表示する場合には、「する」に設定する必要があります。なお、ROM 上のデータベースは一覧アイコンが RAM 上のデータベースと異なり、コピー禁止属性が ON になったデータベースとして扱われます。



ROM 上のデータベースはアイコンで識別します。

・キャッシュ(a68k)表示
OS5 の 68K エミュレータが作成するアプリケーションのリソースキャッシュデータベースの表示を設定できます。通常、キャッシュデータベースはシステムが管理しているため、削除や上書き等の操作はできません。「しない」にしておくことをお勧めします。また、表示するようにした場合は、アプリケーション本体のデータベースとキャッシュデータベースの以下のような点にご注意ください。

キャッシュデータベースはアプリケーションが存在している間はシステムがロックしているため削除できません（一部例外を除く）。また、アプリケーションが削除された

場合は、該当するキャッシュデータベースは削除されます。このような関係があるため、例えば「キャッシュ->アプリケーション」の順番で削除処理を行っても削除できません。しかし、「アプリケーション->キャッシュ」の順番では削除できます。つまり、同じデータベースを削除する指示を出しているにもかかわらず、表示のソート順等によっては結果が異なる場合があります。



削除される



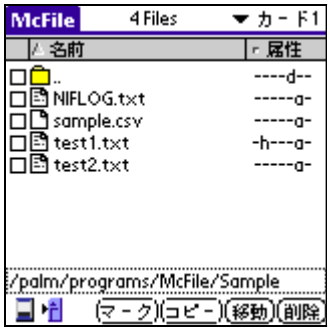
削除されない

不可視項目

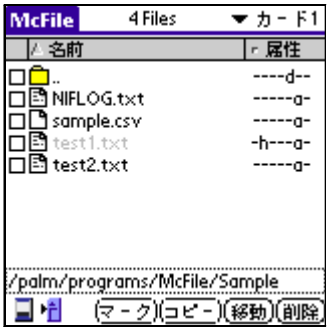
メモリーカード上のファイルに不可視属性が設定されているときに、どのように表示するか設定します。表示方式は以下の３種類から選択可能です。

通常	他ファイルと同様に表示します。区別はありません。
灰色	薄く表示され、他ファイルと区別されます。
隠す	まったく表示しません。

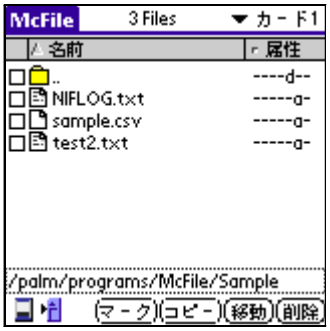
※test1.txt に不可視属性が設定されている場合、それぞれの設定で表示例です。



通常



灰色



隠す

確認

確認のダイアログメッセージに関する設定を行います。

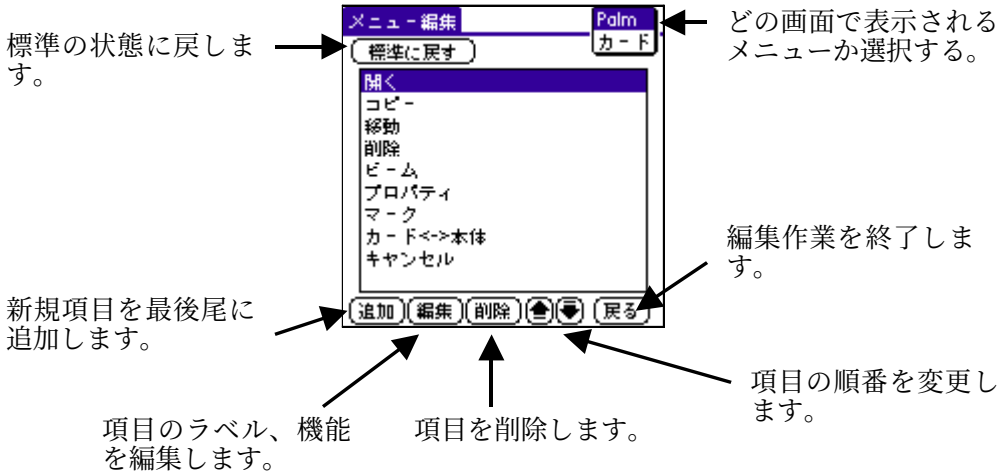
・ディレクトリ削除時

ファイル一覧で項目を削除するときに、ディレクトリが含まれているときに確認メッセージを表示「する」「しない」を設定します。

7-3.メニュー項目編集

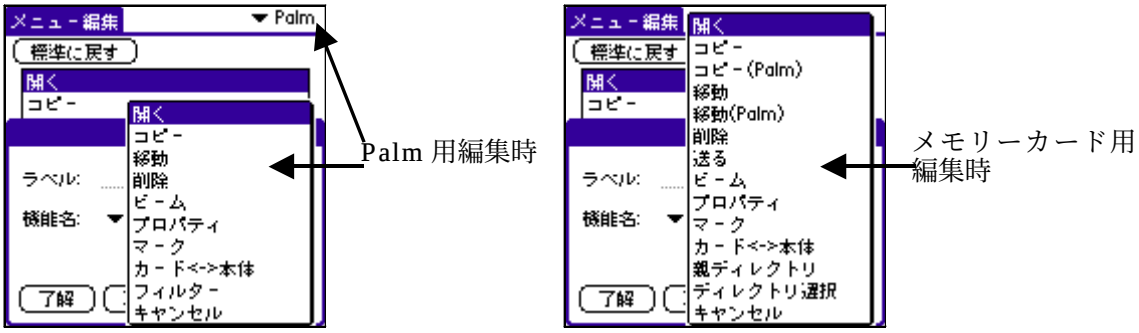
ジョグの押し込み、一覧項目のタップにより表示されるファイル操作の項目を編集することができます。たとえば、ジョグ搭載機種ではジョグに特化したメニューに、逆にジョグを搭載していない機種では、頻度の低い項目を削除するといったことが可能です。
なお、編集するのは「Palm 内のデータベースを表示しているとき」「メモリーカード内のファイルを表示している」の２種類の操作リストになります。その他の「コピープロテクトが ON のデータベースを選択しているとき」等の状況に応じた操作メニューは、設定されたメニューから自動的に生成されます。

・編集画面
基本的には「追加」「編集」「削除」を行うだけですが、右上のメニューにより２種類の操作メニューを編集することに注意してください。



・項目の編集画面

「追加」および「編集」ボタンをタップすると、ラベルと機能を選択する画面が表示されので、必要な情報を設定してください。なお、選択できる機能は以下のようになります。



Palm（本体）用を編集しているとき

機能名	内容	備考
開く	データベースを開きます。	関連付けされていないときは表示されません
コピー	データベースをコピーします	コピープロテクトされているときは表示されません
移動	データベースを移動します	コピープロテクトされているときは表示されません
削除	データベースを削除します。	
ビーム	データベースを赤外線送信します	コピープロテクトされているときは表示されません
Bluetooth	データベースを Bluetooth で送信します	コピープロテクトされているときは表示されません
プロパティ	データベースのプロパティ画面を表示します	
マーク	選択されている項目をマークします	
カード<->本体	一覧画面の内容を切り替えます	
フィルター	データベースフィルターをポップアップします	
キャンセル	操作リストを閉じます	

・

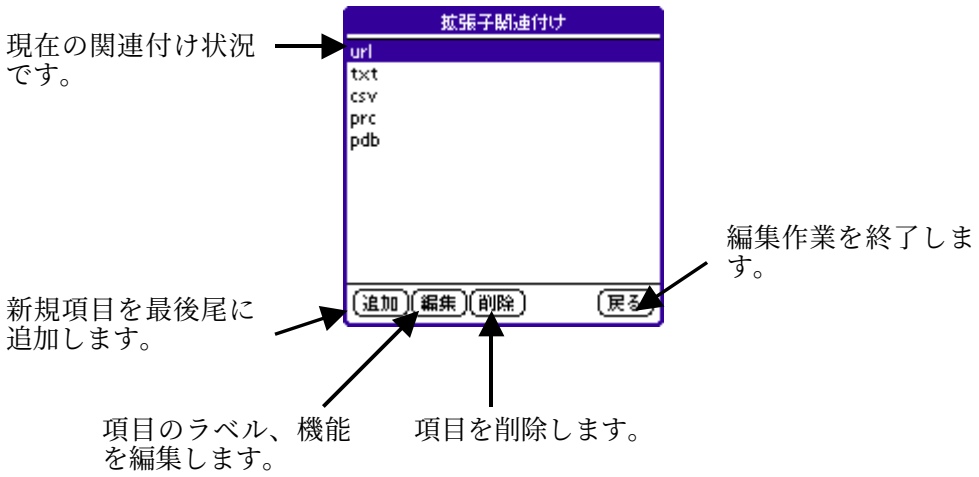
・カード用を編集しているとき

機能名	内容	備考
開く	ファイルを開きます。	関連付けされていないときは表示されません
コピー	ファイルをコピーします	
コピー(Palm)	ファイルを Palm 本体へコピーします	PRC/PDB/PQA 以外を選択しているときは表示されません
移動	ファイルを移動します	
移動(Palm)	ファイルを Palm 本体へ削除します	PRC/PDB/PQA 以外を選択しているときは表示されません
削除	ファイルを削除します。	
送る	送る一覧へ設定されている項目を表示します。	
ビーム	ファイルを赤外線送信します	
Bluetooth	データベースを Bluetooth で送信します	
プロパティ	ファイルのプロパティ画面を表示します	
マーク	選択されている項目をマークします	
カード<->本体	一覧画面の内容を切り替えます	
親ディレクトリ	一覧表示されているの親ディレクトリへカレントディレクトリを移動します。	
ディレクトリ選択	ディレクトリ選択画面を表示します。	
キャンセル	操作リストを閉じます	

7-4.拡張子関連付け

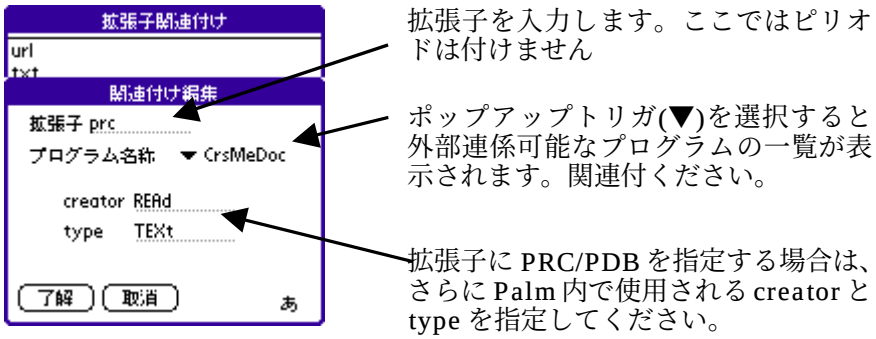
McFile では「外部連係に対応しているアプリケーション」または「Drag&Drop モジュール[3]」をファイルの拡張子に関連付けることによって、選択されているファイルを「開く」ことができます。

・編集画面



・関連付け編集画面

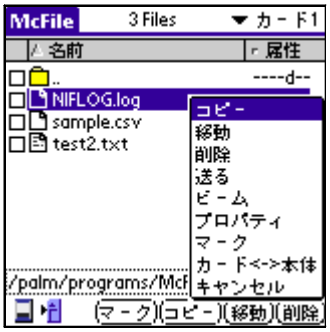
「追加」および「編集」ボタンをタップすると、拡張子等の関連付け情報とアプリケーションを編集する画面が表示されます。



[3] 福本さんが開発された Drag&Drop 用の拡張用モジュールです。詳しくは http://www.umap.net/ を参照してください。

・設定例

ここでは、拡張子 log に対して McText.prc を割り当てる場合の設定手順を紹介します。他の拡張子、アプリでも同様の手順で行うことができます。



サンプル設定では拡張子 log にはなにも関連付けてないので、「開く」項目は表示されません。



設定メニューから拡張子関連付けを選択して、表示された画面で追加ボタンをタップします。

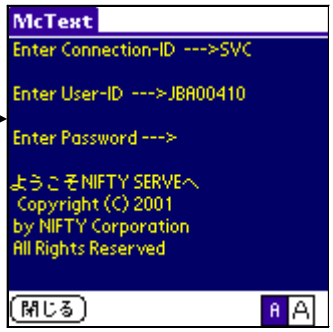




拡張子フィールドに log を入力します。このとき大文字小文字は識別しませんが、全角半角は注意してください。
続けて、プログラム名称横のポップアップトリガ(▼)を使って、名称を McText に設定します。



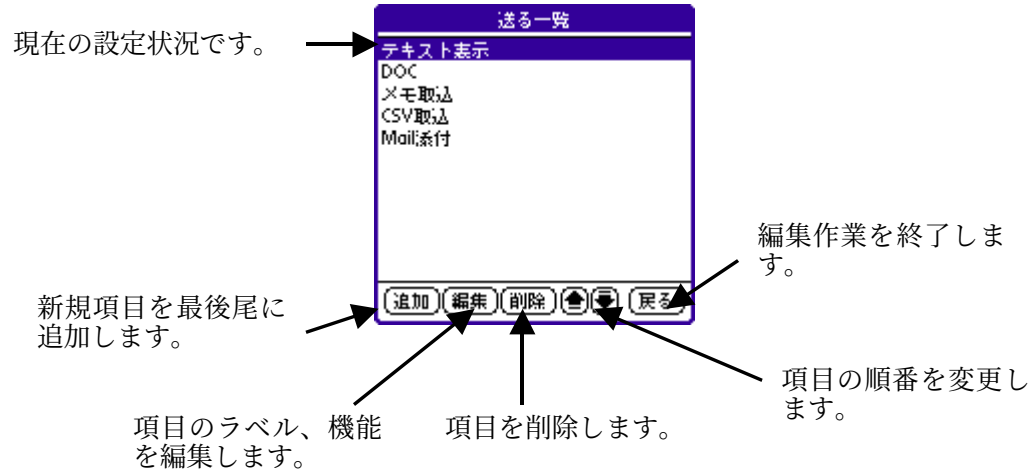
McText が関連つけられたので、「開く」項目が表示されます。もちろん選択すれば、McTexr でファイルの閲覧が可能です。



7-5.送る一覧

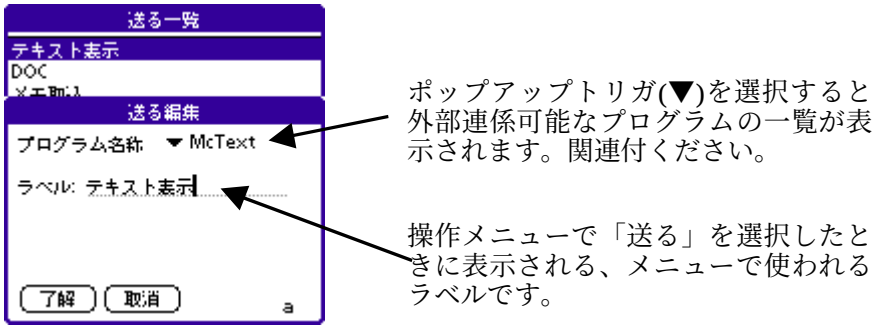
「送る」は拡張子関連付けのように、連係可能なアプリケーションによるファイルを開くための設定ですが、拡張子に依存せずに処理したいようなアプリケーション、たとえば「メールへの添付」等を登録しておく機能です。この一覧に登録しておくと、ファイル一覧の操作メニューで「送る」を選択すると一覧が表示され、選択されたファイルを「送る」ことができます。

・編集画面



・送る項目編集画面

「追加」および「編集」ボタンをタップすると、項目のラベルとアプリケーションを編集する画面が表示されます。

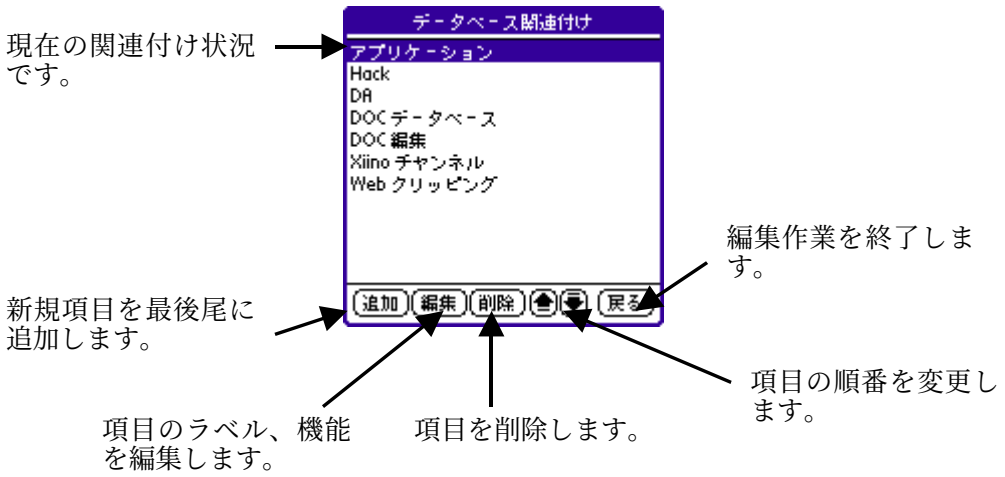


7-6.データベース関連付け

従来の McFile にあった、本体データベース表示において「アプリケーション」のみリストアップするといった機能の拡張版です。また、フィルターとしての機能だけではなく LaunchEm LauncherIII のタブ設定のように、データベースのクリエータおよびタイプに対してアプリケーションを関連付けて、リストアップされたデータベースを「開く」機能もそなえています。なお、ここで言う「データベースを開く」ための処理は、拡張子関連付けのように特別なものでなく、PalmOS で規定されている標準的な手順で行われます。たとえば、上記の LauncerIII、Crs-Launcerh 等の Launcher と比較的多くの DOC リーダーアプリケーションの組み合わせで、この方法は使われています。

・編集画面

メニューの「設定」->「データベース関連付け」を選択すると、設定パネルが表示され、ファイル操作メニューの送るから選択できる一覧へ任意のプログラムを登録することができます。



・関連付け編集画面

「追加」および「編集」ボタンをタップすると、フィルターとしての情報とアプリケーションを編集する画面が表示されます。



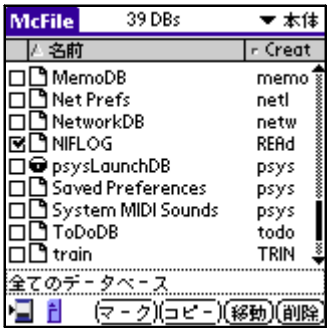
データベースフィルターリストに表示されるラベルです。

ポップアップトリガ(▼)を選択すると本体内のアプリケーション一覧が表示されます。関連付ください。

データベースをリストアップするための creator と type を指定します。プログラム名称を指定している場合は、両方埋める必要があります。

・フィルターとして使う

通常フィルターとして使う場合「何らかのアプリのデータベースをリストアップしたい」といった用途が多いと思います。そこで今回は、例題として「DOC データベースの一覧をリストアップするフィルター」を作成してみたいと思います。

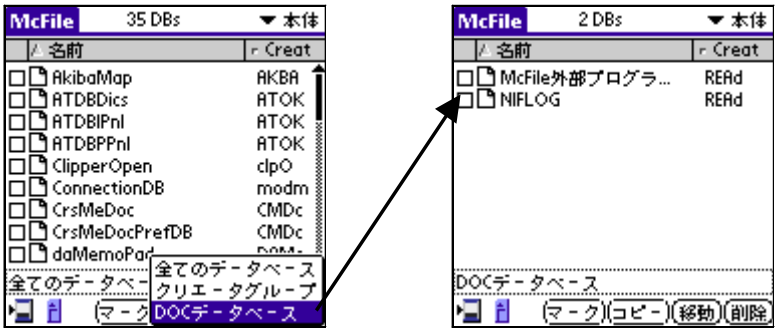


まず、McFile で本体内のデータベースを表示して、なんでもかまわないので DOC データベースを探して、それをマーク（チェックする）してください。



メニューの「ツール」->「データベース関連付け」を選択して、さらに「追加」ボタンをタップしてください。
表示された編集画面では、既に creator と type 項目が入力されています。これは先ほどマークしたデータベースから読み取ったものです。つまりこの時点で、条件の指定は完了しているので、あとはラベルを入力するだけです。今回はラベルに「DOC データベース」と入力してください。

以上で、フィルターの作成は終了しました。データベース一覧の画面下部の、点線で囲まれているエリアをタップすると、先ほど入力した「DOC データベース」がリストに表示されるので、選択してみてください。一覧画面に表示されるのが、DOC データベースだけになったことが確認できるはずです。



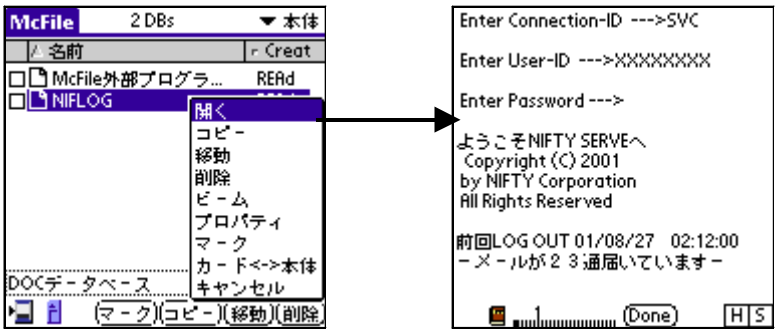
・フィルターにアプリケーションを関連付ける

McFile ではフィルターにアプリケーションを関連付けることが可能です。たとえば、先ほどの「DOC データベース」フィルターに Crs-Me-Doc を関連付けると、本体内の DOC データベースを McFile から開くと Crs-Me-Doc が起動されます。それでは、今度は例題として「DOC データベース」へ Crs-Me-Doc を関連つけてみましょう。



メニューの「ツール」->「データベース関連付け」を選択して、リストから「DOC データベース」を選択して「編集」ボタンをタップしてください。表示された編集画面の「プログラム名称」の右に表示された逆三角をタップしてください。プログラム一覧が書かれたリストがポップアップされるので、Crs-Me-Doc を選択してください。

以上で、関連付けは完了しました。データベース一覧でフィルターを「DOC データベース」へ変更して、表示された DOC データベースをタップしてください。ポップアップされたメニューから「開く」という項目を選択すると、Crs-Me-Doc が起動するはずです。



・.選択できるプログラムを調べる

データベース関連付けでは、リストにデバイス内の全てのプログラムがリストされ、関連つけることが可能です。しかし、実際には外部のプログラムにデータベース名を渡すためには、起動される側のプログラムにある引数(sysAppLaunchCmdOpenDB)を解釈する機能が必要です。この引数は PalmOS で標準のものですが、プログラム側で必ずしもサポートする必要はないため、実装されていないケースが多いです。また、その引数をサポートしているかは、開発元がマニュアル等に記述していない限りは、利用者が外部から調査する手段はありません。よって、少し乱暴な方法になりますが、フィルターに関連付けることが出来るアプリを探す場合は「実際にアプリを関連付けして、起動してみる」といったことを試してみてください。対応していないアプリを McFile から起動するとほとんどの場合「渡されたデータベースを無視して通常起動する」または「なにもせずに McFile へ戻ってくる」といった動作になります。

・高度な使い方

データベース関連付けは、同一のクリエータとタイプに異なるアプリケーションを割り当てることができます。この機能を使うと、あるフィルターで DOC データベースを表示しているときは「Crs-Me-Doc で DOC の閲覧」、別のフィルターで DOC データベースを表示しているときは「PenDoc で DOC の編集」といったことが可能です。なお、少々複雑ですが以下の情報を知っていると、データベース関連付けの設定の作成が行いやすくなります。

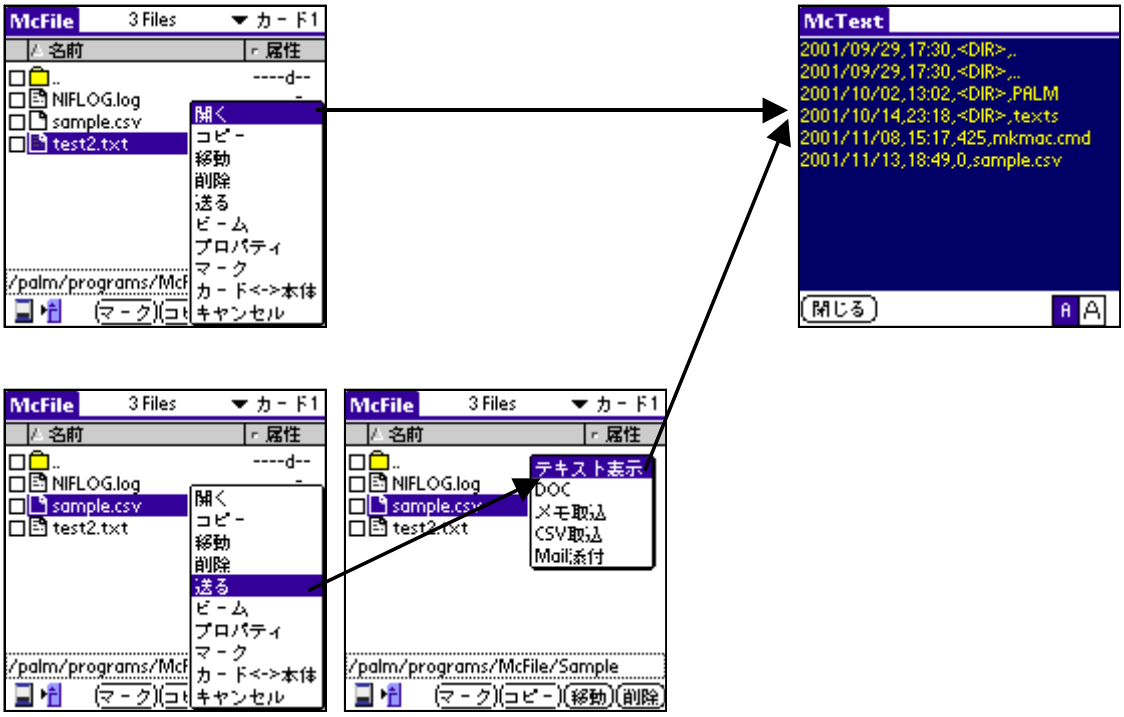
1.アプリを未設定にしておくと、ただのフィルターとなる。このときは、creator type フィールドを空欄にすることが可能
2.アプリを設定するときは、creator type フィールド全てうめる必要がある
3.アプリが設定されているフィルターを使用しているときは、そのアプリを優先してデータベースを開く
4.アプリが未設定なフィルターを使用しているときでも、他フィルターの条件がヒットして、尚且つそのフィルターにアプリが設定されていれば、そのアプリを使用する。

8.ファイルのテキスト表示 (McText)

サンプル設定および McText.prc を導入した状態であれば、拡張子 txt のファイルを「開く」または、「送る」メニューから「テキスト表示」を選択すると、ファイルの内容をテキスト表示することができます。

・起動と終了

「閉じる」ボタンのタップまたはジョグを押すことにより、テキスト表示画面(MxText)を閉じることができます。

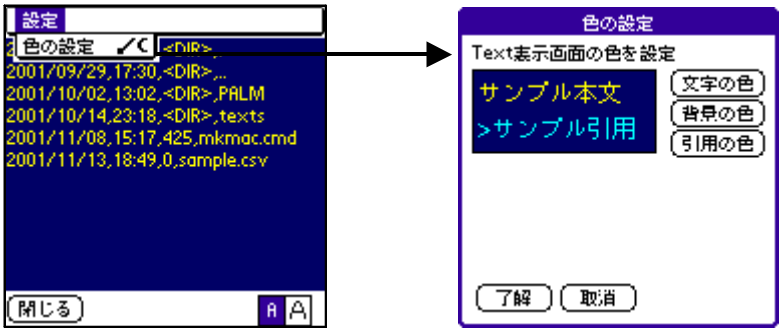


・画面スクロール

上下キーまたはジョグによって画面をスクロールさせることができます。

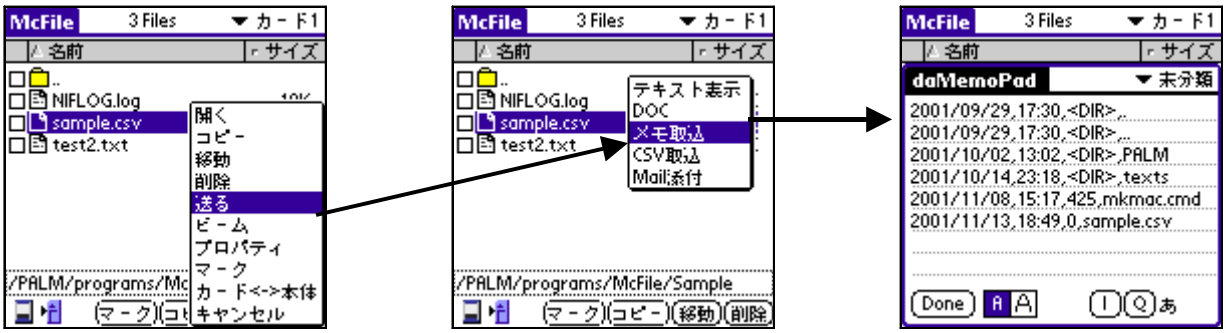
・色設定

メニューから「設定」->「色の設定」を選択すると、背景色・文字色等を指定することができます。なお、モノクロモデルでも 16 階調の中から選択可能となっています。



9.テキストのメモ取込 (daMemoPad)

サンプル設定および daMemoPad.prc(opt フォルダのものまたは ver.0.234 以降)を導入した状態であれば、送るメニューの「メモ取込」を選択すると、標準 daMemoPad を起動して、テキストの内容を新規メモとして貼り付けます。この状態で daMemoPad 上でメモを保管すれば、標準のメモ帳に取り込まれます。なお、McFile から daMemoPad は Drag&Drop 起動されるので、取り込めるファイルの大きさは 4K バイトに制限されます。

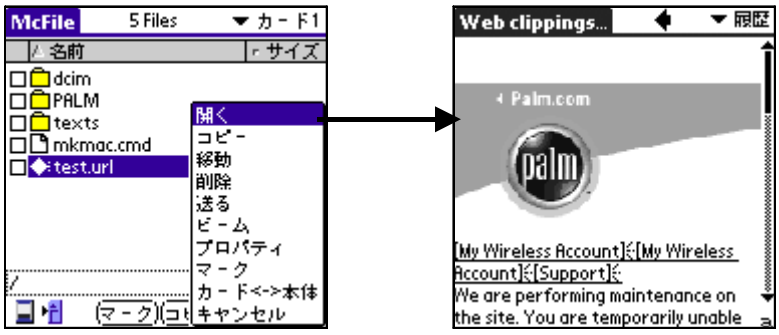


なお、daMemoPad の詳しい使い方は

http://www.jade.dti.ne.jp/~imazeki/palm/damepd.html を参照してください。

10.URL を開く (ClipperOpen)

サンプル設定および ClipperOpen.prc(opt フォルダーまたは Web から入手)を導入した状態であれば、拡張子 url のファイルを「開く」と、ファイルの内に記述されている http://～を検索して、そのアドレスを WebClipping 経由で開きます。たとえば、「http://my.palm.net」と記述された.url ファイルを開くと以下のようなページがオープンされます。



11.メールへ添付 (McMail)

サンプル設定および McMail.prc を導入した状態であれば、送るメニューの「Mail 添付」を選択すると、標準メールボックスに新規メッセージを作成してファイルの内容を添付します。メール添付機能の仕様と制限は以下の通りです。メールを受け取る環境で不具合が出ないか、実際に送信する前に確認してください。

・添付形式は uuencode のみです。
McMail の添付機能は「メッセージ本文用のテキストを作成」するだけなので、メールヘッダに対して操作が必要な MIME は使えません。これを実現するには専用のメール送信機能が必要です。現状ではクライアントとしての完成度から、送信は PSMail Papi-Mail POPJ 等のメールクライアントにおまかせしています。

・分割送信
添付されるファイルは 45K を目処に分割送信されます。こちらも MIME が使えないために、単純にファイルを分割して添付しています。詳しくは添付ファイルの復元方法をご覧ください。

・宛先の指定

現状では、To のみ指定可能で CC BCC 等は McFile からは指定できません。必要な場合には、メッセージのサイズが 64K でも編集できるソフトで、メッセージの送信先を編集してください。

・標準のメールボックス
現在の仕様では、標準のメールボックス内からのメール送信が可能なメールソフトでないと、McMail が作成したメッセージは送信できません。例えば、CLIE に付属の MultiMail では送信ができません。

・HotSync
Palmdesktop に付属するメールコンジットでは送信メールの長さに制限があるため、McMail で作成したメッセージは途中でカットされます。そのため添付ファイルとしては正しく機能しなくなりますので、McMail で作成したメッセージは PC 上から送信しないでください。

・本体空き容量
uuencode でファイルを添付するため、本体にファイルサイズ x 4/3 強の空き容量が必要となります。

・メール送信サイズ
これまで Palm 上から 10K を超えるようなメッセージが送信されたケースはあまりないと考えられます。よって、ソフト、ハード、通信環境の組み合わせによっては、McMail が作成する大きなサイズのメッセージは送信できなかもしれません。

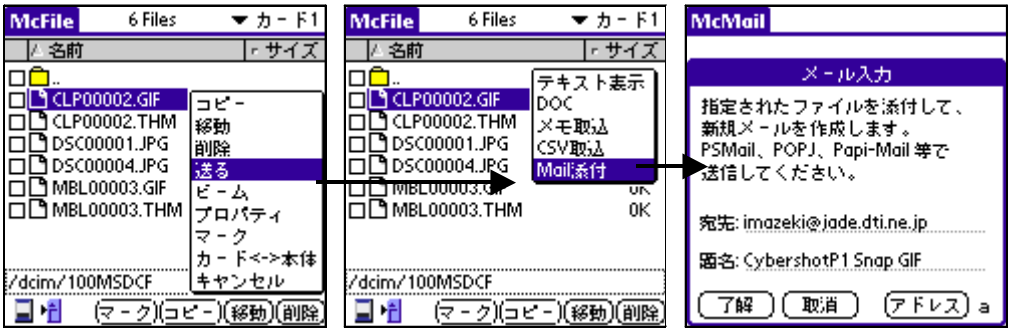
参考までに私がテストした環境を記述しておきます。

本体	PEG-S500C PEG-S300
携帯	NM502i
接続	赤外線
メールクライアント	POPJ PalmScapeMail

以上の環境で 60K のファイルが分割送信されるのを確認しました。

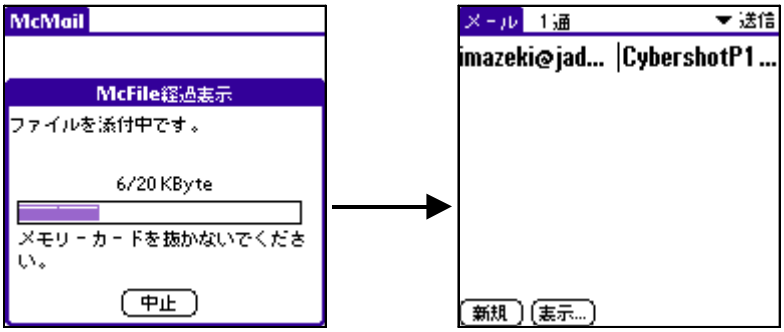
11-1.添付方法

1.ファイル操作メニューから「Mail 添付」を選択すると、メールの宛先、題名を入力する画面が表示されるので、アドレスボタン等を活用して入力してください。



2.ファイルの変換作業進捗が表示されるので、しばらくお待ちください。

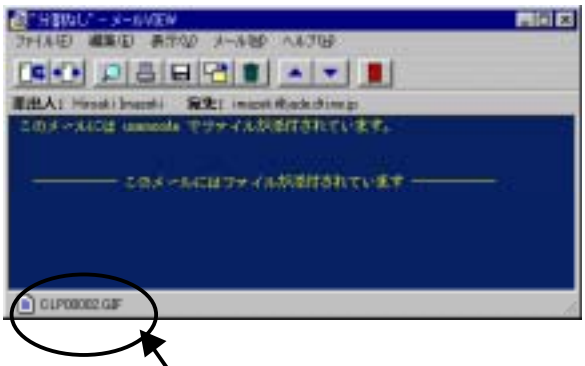
3.作業が終了したら、お使いのメールソフトでメッセージを送信してください。なお、メールソフトで「送信時に行を折り返す」等の本文を修正するような機能がある場合には、動作しないようにしておいてください。受信したときに正しく復元できなくなる場合があります。



11-2.復元方法

ここでは、PC (Win 系の OS) 上で McMail からのメッセージを受け取った場合の対応方法を説明します。

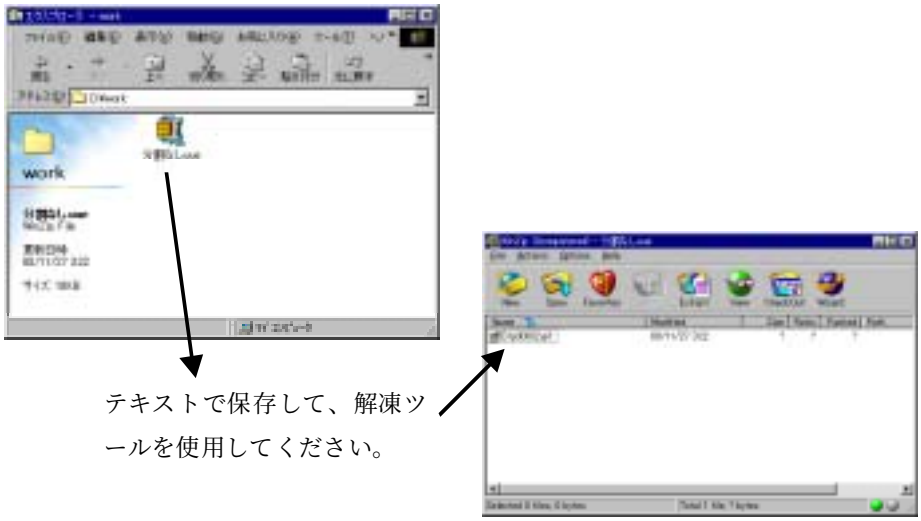
1.分割されずに、添付ファイルとして認識されている場合
題名の最後に [n/n] 等の連番がつかずに、且つメールソフトから添付ファイルとして認識されている場合は、そのまま保管してお使いください。



このまま保管してください。

2.分割はされないが、添付ファイルとして認識されない場合

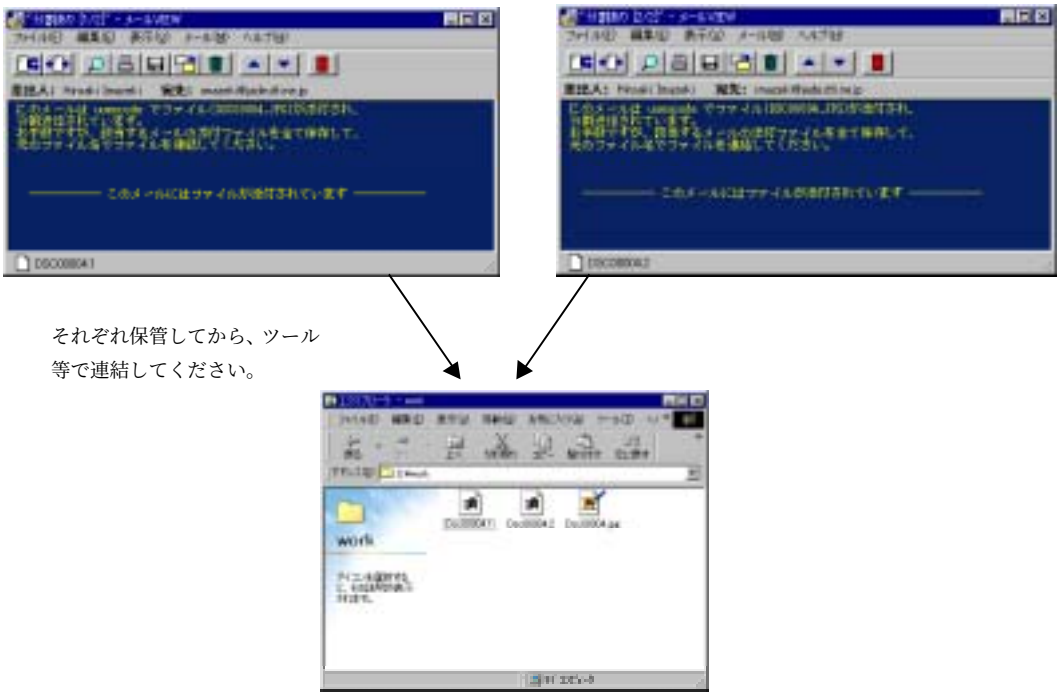
このような場合は、メッセージ全体を xxxx.uue といったように、拡張子を.uue として一旦テキストファイルとして保管してください。そして、そのファイルを WinZip 等のファイル解凍ツールで開くと復元可能です。



3.分割されているが、添付ファイルとして認識されている場合

題名の最後に [n/n] 等の連番がついて、同様の題名で複数のメッセージを受信した場合はファイルが分割されています。各メッセージの中にこのメールは uuencode でファイル(DSC00004.JPG)が添付され・・・」といった文章があるので、括弧内のファイル名を控えておいてください。これが元のファイル名です。

それぞれのメッセージに添付されているファイル(xxxx.1 等）を一旦保管してください。あとは、ツール等を使って各ファイルを連結して元のファイル名で保管してください。



例えば DOS プロンプトが使える OS の場合は

COPY /B DSC00004.1+DSC00004.2 DSC00004.JPG

と、することによって連結可能です。

4.分割されていて、添付ファイルとしても認識されない場合

それぞれのメッセージを、項目 2 のように一旦テキストファイルとして保管して、各ファイルを取り出してください。以降は項目 3 のように 各ファイルを連結してください。

12.Wave ファイルの再生

ながまつ氏の作成された Wave Sound Manager が導入された状態であれば、拡張子 wav のファイルを「開く」とファイルを再生することができます。再生に対応している機種や Wave ファイルのフォーマット等は Wave Sound Manager のドキュメントを参照してください。

※McFile は Wave Sound Manager の機能をオープンした後にクローズしません。Wave Sound Manager を削除するには、いったんソフトリセットをおこなってから削除をおこなってください。

13.バックアップおよびリストア

McFile に実装されているバックアップおよびリストア機能は、単純なデータベースの Export/Import により実現されています。よって、完全なバックアップは行ないことを事前にご了承ください。

13-1.メリット

・独自形式のファイルにまとめないため、PC 上でファイルの個別操作が行えます。

・McFile で獲得したバックアップセットは Pilot-xfer、SyncWizard 等でリストアすることも可能となっています。

・また、Pilot-xfer 等で獲得してあるファイルを、特定のディレクトリにコピーすることで、McFile からリストア可能です。

13-2.デメリット

・各種アップデータを適用していないと、正常にバックアップされないデータベースがあります。お使いの機種のメーカーサポートページを参照してください。

・本体内のメモリー容量ぎりぎりまで使用していると、8M のメモリーカードでは収まらないときがあります。

・リストア時に Import 機能が正常に動作しないときがあり、Fatale エラーや強制リセットがかかるときがあります。（この問題は、運用によりある程度回避できます。詳しくはリストア操作の項目を参照してください）

なお、バックアップ時にはコピープロテクトされたデータベースもバックアップされるので、取り扱いには注意してください。McFile 単独では操作できなようにしていますが、PC 上または他のツールでは該当ファイルも操作可能となっています）

13-3.バックアップ操作

ATOK、クロックアップ、HackMaster 等の各種 Extention は必ず停止しておいてください。また、OS 等の各種アップデートも行っておいてください。

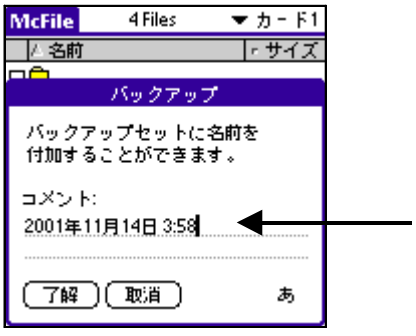
十分な空き容量があるメモリーカードをスロットに挿入しておいてください。安定性確保のために、できればフォーマット直後が望ましいです。準備が整ったら、以下の手順を実行してください。

・バックアップを取得するスロットを選択して、メニューから「バックアップ」->「バックアップ」を選択。

・いくつかメッセージが表示されるので、確認してください。
ここでバックアップ作業をキャンセルすることもできます。



・今回取得するバックアップ（バックアップセット）に名前を付加する画面が表示されるので、後で識別しやすい名前を付けてください。



タイムスタンプが挿入されているので、わかりやすい名前に編集してください。

・バックアップ処理が開始されます。



バックアップは /Palm/Programs/McFile/backup にコピーされますが、McFile.prc は別のディレクトリへコピーされます。OS3.5.x の場合は/Palm/Programs/MsFile へ OS4.0 の場合は/Palm/Launcher へコピーされます。これは後のリストア作業のためです。

※バックアップには以下の制約があります

・１つのメディアには、１バックアップのみ取得可能です。

・データベースの内容が壊れているものは、バックアップできません。（例えば、ホーム画面のメニューから「アプリケーション」->「情報」を選択すると、Fatale エラーになるような場合）

・データベース名の特殊文字等がエラーにならないように、バックアップ時のファイル名は強制的にエンコードされます。

13-4.リストア操作

バックアップされたファイルをリストア機能で戻す場合は、ハードリセット[4]が必要です。事前にデバイスに付属のマニュアルで操作方法を確認しておいてください。なお、OS の制限として以下のファイルは戻せないため、自動的にスキップされます。

・Graffiti+ShortCuts.prc

・Net+Prefs.prc

・Sonyres.prc（PEG-N700C のみ）

また、CLIE ではハードリセット直後に ClieDemo および PGPocket のデータが RAM 上に展開されますが、これの容量が大きいためリストアが失敗する可能性があります。これを回避するため McFile では ClieDemo(クリエータ ID='Clie')および PGPocket データ(クリエータ ID='IMVS'、タイプ='IMVS')のデータベースをリストア直前に削除します。
※バックアップセットに上記ファイルが含まれている場合は、それは削除せずにリストします。削除するのはあくまで、リストア前に展開済みのデータベースです。

[4]ハードリセットとは、デバイス本体内のデータをすべて消去して、工場出荷状態にする作業のことを指します。この作業を不用意に実行するとデータが失われますのでご注意ください。なお、ハードリセットの操作手順については、お手数ですがデバイス本体付属のマニュアルを参照してください。

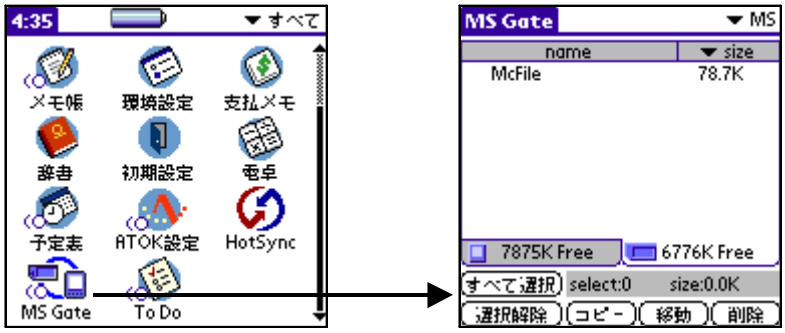
以下、リストアの流れを記述します。データベースの内容によっては、操作が複雑になりますがご了承ください。

1.メモリーカードは書き込み可能状態にしておいてください。（これは、復元に失敗したファイルの情報等を書き込むためです）

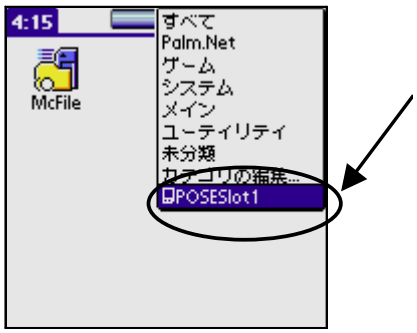
2.ハードリセットを行って、デバイス本体内のメモリーをクリアしてください。

3.メモリーカードから McFile を起動します。（OS のバージョンで操作が異なります）

※OS3.5 の場合はメーカー独自のファイル操作ツールを使って、McFile を本体内にコピーしてください。(以下は CLIE の場合です)



OS4.0 の場合はカードカテゴリから McFile を直接起動してください。

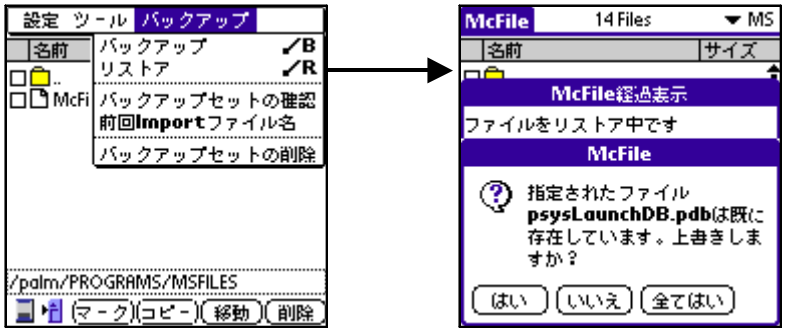


OS4.x の場合はホーム画面のカードカテゴリから直接起動できます

4. McFile を起動してください。

5.メニューから「バックアップ」->「リストア」を選択してください。

6.リストアが開始されます。途中「ファイル上書きの確認」等のメッセージが表示されるので、適宜ボタンをタップしてください。(リストアファイル数は、McFile が除かれているので、バックアップ時より -1 されて表示されます)



7.うまくいけば、これでリスト作業は終了です。終了画面が表示されたら「OK」ボタンをタップして、CLIE をリセットしてください。



了解をタップすると、リセットがかかります。

8.もし、リストア中にリセットがかかったり、Fatale エラーが発生した場合は、「必ずハードリセットを行ってから」以下の手順を実行してください。

9.項目の 3 を実施して、再度メモリーカードから McFile を起動してください。

10.メニューから「バックアップ」->「リストア」を選択してください。
（ここまでは、通常手順と同様です）

11.前回失敗したファイルを移動するメッセージが表示されるので、「OK」ボタンをタップしてください。

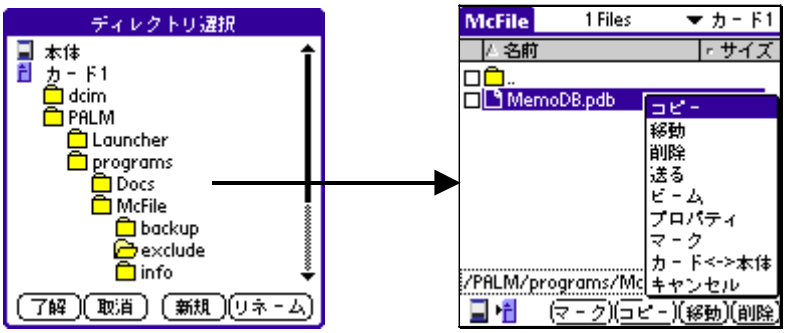


了解をタップすることにより、前回失敗したファイルを移動して、リストアを開始します。

12.リセット、Fatale エラーが出なくなるまで、手順 8 からの作業を繰り返してください。

13.リストアが最後まで終了したら、デバイス本体をリセットしてください。

14.デバイス本体が起動したら McFile を起動して /Palm/Programs/McFile/exclude の中を確認して、個別にファイルをコピーしてください。 連続して Import するとエラーになるファイルも、個別にコピーすれば殆どの場合コピーに成功します。



※リストアには以下の制約があります。

・ハードリセット直後でないと殆どの場合リストアに失敗します。

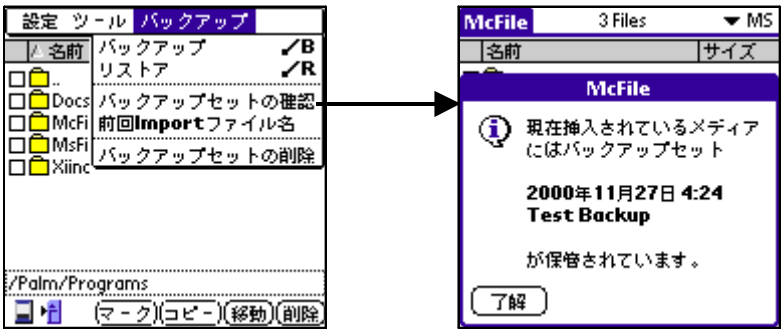
・OS の制限により「Graffiti+ShortCuts.prc」「Net+Prefs.prc」のファイルは戻せません。PEG-N700C では「sonyres .prc」のファイルも戻せません。

・部分的なリストアはできません。ただし、PC 上にメモリースティックの 内容をコピーして、そこから戻すことは可能です。

・標準の Launcher を使用されている場合、リストア直後のカテゴリ情報は保証されていません。お手数ですが手動で並べなおしてください。

13-5.バックアップセットの確認

メニューから「バックアップ」->「バックアップセットの確認」を 選択することにより、現在挿入されているメディアに保存されているバックアップセットの内容（名前）を確認することができます。

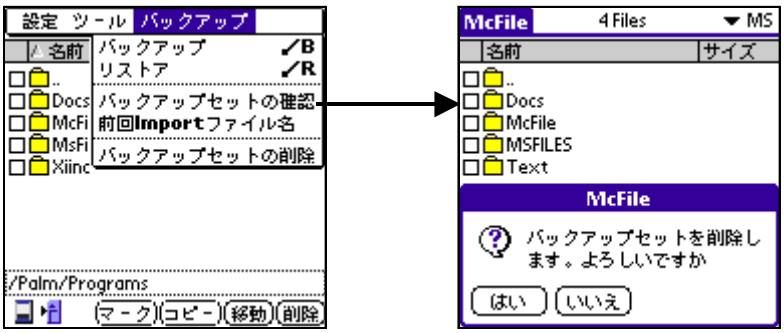


13-6.前回 Import に失敗したデータベースの名前

メニューから「バックアップ」->「前回 Import ファイル名」を 選択することにより、現在挿入されているメディアに保存されているバックアップセットをリストアするときに、失敗したファイルの名前が確認できます。なお、この名前は１回前のものしか残りませんので、注意してください（失敗した全てのファイルは /Palm/Programs/McFile/exclude を参照してください）

13-7.バックアップセットの削除

メニューから「バックアップ」->「バックアップセットの削除」を 選択することにより、現在挿入されているメディアに保存されているバックアップセットを削除できます。新しくバックアップを取得する場合に利用してください。

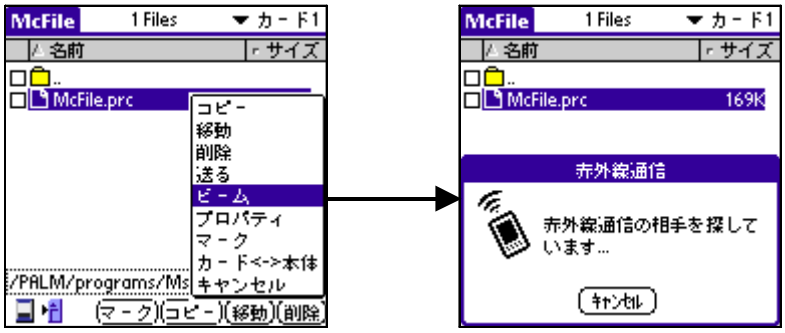


14.赤外線通信

McFile では、赤外線通信による任意のデータベース送信および、メモリーカードのファイル送受信が可能となっています。このメモリーカード上での送受信は PalmOS 標準の赤外線通信と異なり、.prc .pdb だけでなく、通常の PC ファイル(.exe .jpg 等)も送受信することができます。ただし、送受信のプログラムロジックは PalmOS 内蔵の転送プログラムを使用するため、送受信できるファイルのサイズは空き容量の約 8 ～ 9 割程度となります。

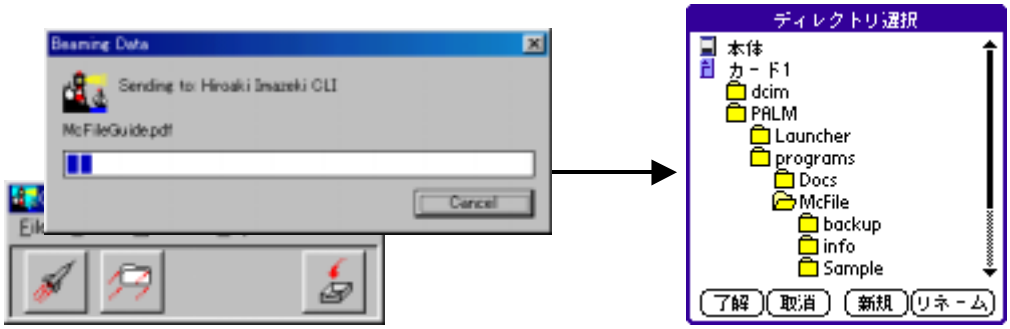
14-1.ファイルの送信

ファイル操作メニューから「ビーム」を選択すると、送信の準備が始まり本体内の作業域に書き込み終わったら自動的に、送信がはじまります。(標準の赤外線送信と基本操作は同等です)



14-2.ファイルの受信

標準の赤外線通信と異なり、受信用に McFile が稼動している必要があります。McFile を起動したら、メモリーカードを挿入してファイル一覧画面にしておいてください。
その後、他の CLIE や IrOBEX ベースでの赤外線ファイル転送が可能な機器[5]からファイルを受信すると、ディレクトリ選択画面が現れるので受信ファイルを保管したいディレクトリを選択してください。



14-3.赤外線機能の活用

赤外線転送されたファイルを McFile で受信すると.prc .pdb 以外のファイルでも、メモリースティックに保管できます。この機能を使うと

・txt を/Palm/Programs/text に受信すると、DOC 変換することなく、長いテキストファイルを J-DOC Reader で閲覧可能です。

・Palm 同士で転送すれば、プログラム本体だけでなく.zip 等のアーカイブも送受信可能です。

・会社のノート PC から Palm 経由でファイルをメモリーカードへ転送して 自宅の PC でメモリーカードからファイルを参照することもできます。

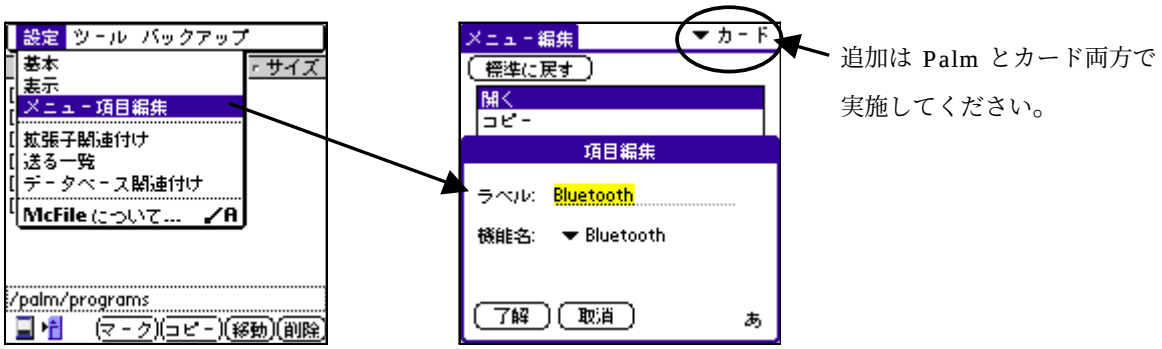
・他 Palm のデータベースを個別にバックアップできます。もちろん、そのデータベースも McFile から直接送信して、書き戻すことも可能です。

[5] QuickBeam を導入した WidowsPC または、Windows2000 の赤外線転送等です。

15.Bluetooth

McFile は赤外線と同様に OS4.0 以降の BtOBEX に対応した Bluetooth 機器を利用して、ファイルの送受信が可能です。例えば PEGA-MSB1 等を利用して、ホーム画面からのファイル送信が可能となっている環境で動作します。操作方法や制限は基本的に赤外線と同様なので、そちらの項目を参照してください。

なお、Ver.2.1Beta4 以前から McFile をご利用頂いている場合は、ファイル操作メニューに Bluetooth が表示されません。そのような場合は、以下のようにメニュー項目の編集機能を使って、Bluetoot 項目を追加してください。



また、Bluetooth によってメモリカードスロットが占有されてしまう場合は、Handwatch.com の PalmRAMDisk をバッファとして使うことによって、RAMDisk 上のファイルを送受信することが可能となります。

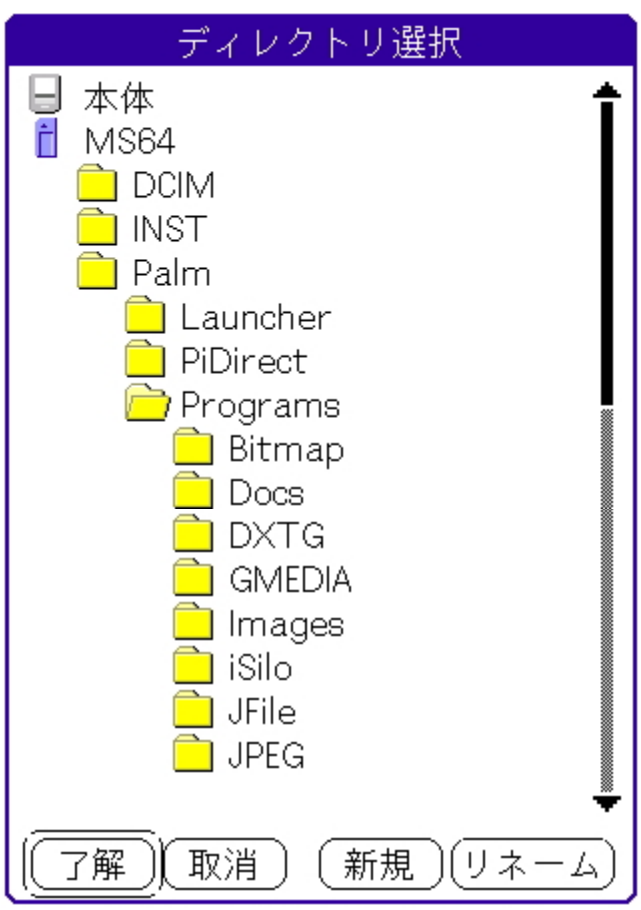
16.ハイレゾ機種用操作

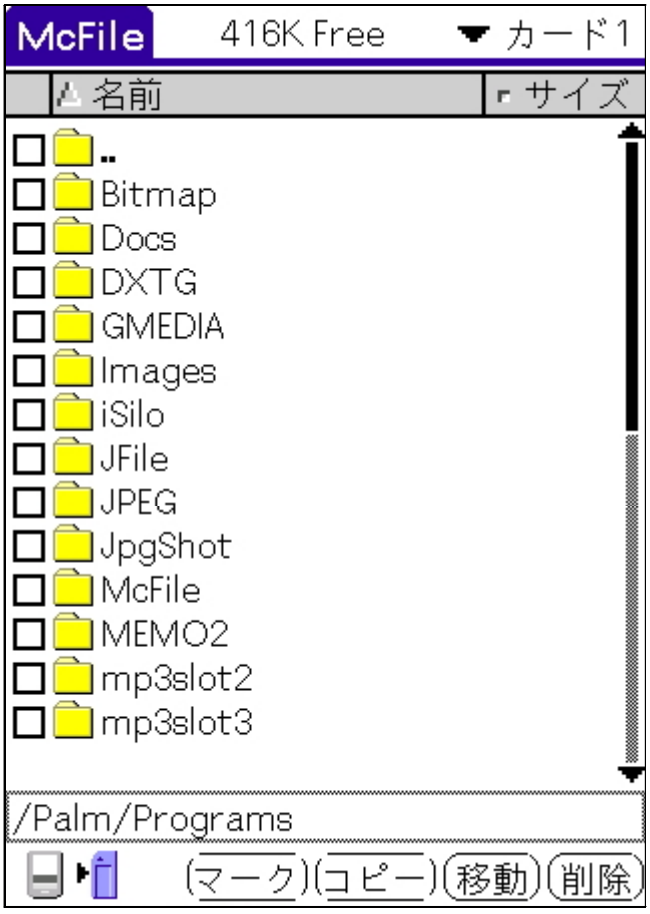
16-1.ソニーハイレゾライブラリ

メニューの「設定」->「フォント切り替え」を選択することにより、一覧画面のフォントがスタンダードフォントとスモールのどちらかに切り替ります。また McText では、タイニー、スモール、スタンダード、ラージから本文表示用のフォントを選択することが可能です。



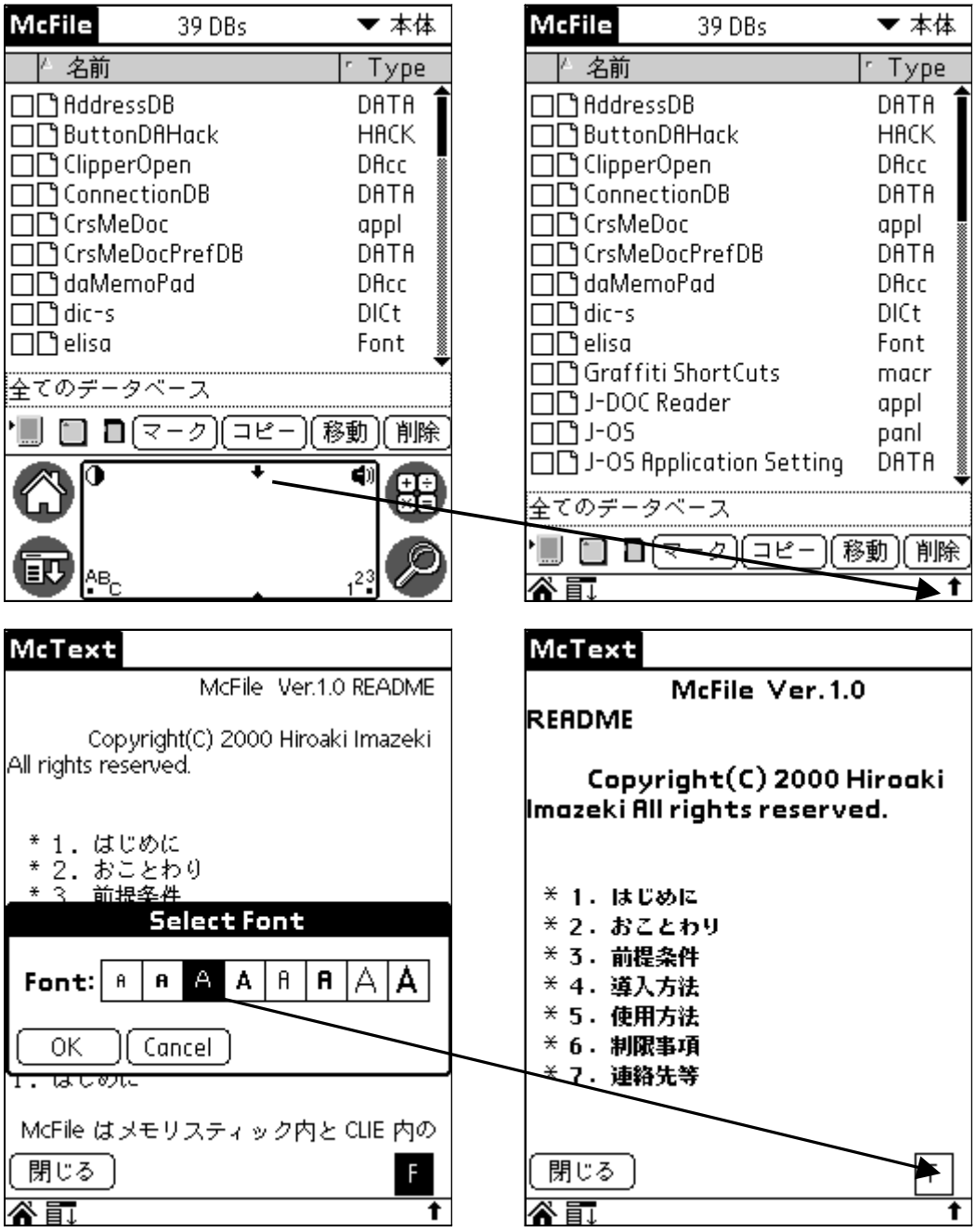
また、縦長ワイド画面もサポートしています。





16-2.HandEra QVGA

仮想グラフィティエリアの非表示に対応しています。また、McText では、QVGA ライブラリが使用可能なフォントから本文表示用フォントを選択することが可能です。



17.その他(制限事項、ヒント等)

１７-１.ショートカットについて

Windows 上等で作成されたショートカットファイルは、McFile 上では通常のファイルと認識されて、ショートカットとして機能しません。たとえば、ディレクトリのショートカットがあっても、それはファイルとして認識されます。

17-2.メモリーカードのフォーマットについて

メモリースティック等のフォーマットを Windows 上等で行うと、アロケーションユニットサイズ等の違いにより、Palm で扱うと非常に処理時間がかかるようになります。メモリーカードはメーカー指定の方法（たとえば使用する機器でフォーマット等）でフォーマットしてください。

17-3.ファイルのリネームについて

メモリーカード上のファイルをリネームした場合には、Palm 本体上で使用される名前は変更されれません。
例えば

・MailDB.pdb を本体からメモリーカードへコピー
・メモリーカード上で上記ファイルを MailDBtest.pdb へリネーム
・MailDBtest.pdb を本体へコピー。

としても、MailDBtest.pdb は MailDB.pdb として本体にコピーされます。

17-4.長いパス名

ディレクトリの階層が深くパス名が長くなると、メイン画面下のディレクトリボタン内に、パス名が収まらなくなります。このようなときにカレントディレクトリを確認する場合は、ディレクトリボタンをタップしてディレクトリ選択画面上で確認してください。

17-5.大量のファイルコピー

McFile ではディレクトリ階層を含めたコピーを正確に行うため、コピー開始前にファイルのリストを作成します。よって、大量のファイルを１度にコピーすることができません。通常の機種では約 300 程度のファイルが限界と考えてください。

17-6.ファイルインポート時の動作

HotSync によって Palm へ prc ファイル等を導入する場合、導入された prc ファイルに対して PalmOS から「HotSync いよって導入されました」といったメッセージが渡されています。アプリケーションによってはこのメッセージを受け取ったことによって、初期化処理等をおこないます。たとえば、システム系のプログラムを導入したときに、リセットを促すような場合です。しかし、McFile では prc/pdb 等のファイルを PalmOS デバイスにインポートした場合、このメッセージがわたりませんので注意してください。

17-7.導入しておきたいアプリケーション

McFile では各種アプリケーションと連係が可能になり、アプリケーションとの連係設定をサンプルとして同梱してあります。これらの設定を活かすために、以下のアプリケーションを導入しておくと、ファイル/デーデース管理の幅が広がります。

TableViewer

福本氏作成の、タブ区切りのテキストを表として取り込み可能な Drag&Drop モジュールです。サンプル設定では、拡張子 csv に対して設定してあります。
-> http://www.umap.net/

Crs-Me-Doc

高橋氏作成の、定番 DOC ビューワーです。拡張子 prc(REAd:TEXt)、pdb(REAd:TEXt)および、データベース関連付けに対して設定してあります。
-> http://isweb41.infoseek.co.jp/computer/crspalm/

PenDoc

入交氏作成の、日本語 DOC エディターです。データベース関連付けに DOC 編集として設定してあります。
-> http://www.juno.dti.ne.jp/~nyuko/index.html

17-8.PC と連動したバックアップ･リストア

McFile で取得したバックアップファイルは全て通常のファイルとして /Palm/Programs/McFile/Backup へコピーされています。もし、McFile で単独リストアが失敗しても、Pilot-xfer、SyncWizard 等で書きもどすことが可能です。また、逆に Pilot-xfer

等で取得したバックアップを上記ディレクトリにコピーすることにより、McFile からリストアが可能です。OS4.x 以降の機種をお使いの場合には、USB 接続も行える SyncWizard がお奨めです。

なお、McFile と直接関係ないですが、私が使用している環境(Windows2000)上で CLIE(PEG-S300/S500C/N750C) USB クレードル経由接続による Pilot-xfer を使う方法を記述しておきます。

・まず、Windows のコントロールパネル->システム->デバイスマネージャを開いて、ポート(COM/LPT)を展開しておいてください。

・通常の HotSync を開始して、シンクロ時に増えるポートを控えておいてください。

・HotSync マネージャーを停止してください。(USB switcher はそのままで）

・Pilot-xfer を起動する準備をしてください。

・HotSync ボタンを先に押してください。（ここが通常と逆の手順になります。）

・Pilot-xfer の -p オプションに先ほどのポートを指定して、起動してください。 これで、USB Switcher が作成する仮想ポートを使って Pilot-xfer が稼動します。

18.連絡先等

基本的には

・ 以下のアドレスへメールを送る
E-MAIL ならば　imazeki@jade.dti.ne.jp

また、私のホームページにもメールアドレス等が記述されています。

http://www.jade.dti.ne.jp/~imazeki/palm/